

科目区分： 科学的思考の基盤、人間と生活社会の理解

科目名	物理学	単位数	2	学科	作業療法	期	前期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	小岩正敏	実務 経歴	
担当教員	小岩正敏		
概要	数式の使用を最小限にして、図など日常体験する例などを多用して物理学を直観的に理解できるよう努力を払い、力学を中心に電気・熱などの働きについて理解する能力と数理的処理能力を養えることを目指す。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	物理学全般の基礎的な教養と知識を身につけることができる。 他の科目で学ぶ人体の構造や動きを物理学の基礎原理に基づいて理解する。 様々な医療機器の動作原理を理解する。		

教科書	「理解しやすい物理基礎」(文英堂)
参考書・教材	
履修上の注意	数式の物理的な意味を説明するとともに、例と例題を適切に使って、物理量の理解及び物理法則の適用法の理解を身につける。(関数付き電卓の使用可)

実施回	授業内容		担当教員
1	物体の運動	: 日常に起こる物体の運動	小岩
2		: 相対運動 (運動とは何かを説明できる。)	小岩
3		: 速度、加速度 (位置、変位、速度、加速度について説明できる。)	小岩
4		: 落下の運動 1 (等速直線運動、等加速度直線運動について説明できる。)	小岩
5		: 落下の運動 2 (等速直線運動、等加速度直線運動の基本的な問題を習得。)	小岩
6		: 運動の法則 (等速直線運動、等加速度直線運動の基本的な問題を習得。)	小岩
7	力	: 力の合成と分解 (力のモーメントについて説明できる。)	小岩
8		: 力のつり合い、作用と反作用、モーメント (並進運動、回転運動が静止する条件を説明できる。)	小岩
9		: 力のつり合いの応用 1 (重心とその求め方について説明できる。)	小岩
10		: 力のつり合いの応用 2 (3つのてこ、について特徴を説明できる。)	小岩
11	エネルギー	: 熱と温度、熱エネルギー (気体の温度、圧力、体積の関係を説明できる。)	小岩
12	電気	: 物質と電気、電流、電圧、抵抗と電気回路 1 (原子の構造と電気の性質について説明できる。)	小岩
13		: 電流、電圧、抵抗と電気回路 2 (電荷の間に働く力について説明できる。)	小岩
戸14		: 電流、電圧、抵抗と電気回路 3 (電場、電圧について説明できる。)	小岩
15		: 電流、電圧、抵抗と電気回路 4 (電流、電圧、抵抗の関係について説明できる。)	小岩

		割合 (%)	基準および方法
	定期試験	90%	受験資格：授業への出席率2/3以上
	平常評価	10%	評価基準：①～③を勘案し総合的に科目評価を行う
			①定期試験：60%以上 ②実技試験：60%以上 ③平常評価：平常試験、レポート、受講態度等の評価C以上

科目区分： 疾病と障害の成立及び回復過程の促進

科 目 名	精神医学	単位数	2	学科	作業	期	後期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	五十嵐 洋介	実務 経歴	
担 当 教 員	五十嵐 洋介		
概 要	精神医学の総論及び各論、特に各種の精神症、精神病（統合失調症、躁うつ病等）及び脳器質性症候群の具体像について講義する。		
一般目標（GIO）	精神障害を引き起こす主な疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を学ぶ。 （対応 CC D-6）		

教科書	「こころの健康がみえる 第1版」（メディックメディア） 「病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版」（メディックメディア） 「PT・OT 国家試験 必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学編 2025 年版」 （医歯薬出版）		
参考書・教材	適宜資料を配布する		
履修上の注意点	復習は毎回行うこと		

実施回	授業内容	担当教員
1	ガイダンス「敵（国家試験）を“正しく”知ろう！」「“努力の方向音痴”にならない為に」	五十嵐
2	統合失調症① 幻覚と妄想、症例の見方、物事を“深く”みるとは？無意識の意識化	五十嵐
3	統合失調症② 幻覚のいろいろ、思考障害「専門用語に慣れていこう！」	五十嵐
4	統合失調症③ 陽性症状と陰性症状	五十嵐
5	統合失調症④ （古典的）病型分類、薬物療法など	五十嵐
6	気分（感情）障害① 国家試験問題解説/うつ病、躁病とは？	五十嵐
7	気分（感情）障害② うつ病、躁病の特徴について深く（自殺にも触れる）	五十嵐
8	気分（感情）障害③ 睡眠障害（不眠症）、診断基準（ICD-10、DSM-IV）、薬物療法など	五十嵐
9	認知症① 国家試験問題解説/Alzheimer型認知症、脳血管性認知症	五十嵐
10	認知症② Lewy小体型認知症、前頭側頭型認知症、Korsakoff症候群、HDS-R/MMSEなど	五十嵐
11	せん妄/依存・中毒① 国家試験問題解説/せん妄、依存の3要素	五十嵐
12	依存・中毒②/薬物療法① アルコール依存症など、向精神薬と抗精神病薬の違いは？	五十嵐
13	薬物療法②/てんかん① 向精神薬各論/てんかん5種類	五十嵐
14	てんかん②/ストレス関連障害 パニック症、社交不安症、強迫症、解離/転換症群など	五十嵐
15	摂食症/PTSD/精神遅滞/児童・思春期の精神症群/人格症/睡眠障害群など	五十嵐

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席
			評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を
			総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 地域作業療法学

令和7年度

科 目 名	地域作業療法学演習Ⅱ	単位数	1	学科	作業	期	後期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	田中 孝博	実務 経歴	通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション事業所など、介護保険領域での作業療法士の実践の他、介護予防に関する地域での講演や講師を担当した経験がある。
担 当 教 員	田中 孝博		
概 要	前期で学習した地域リハビリテーション、地域作業療法の基礎を元に、予防における作業療法士の役割や必要な技能、生活行為向上マネジメントについて理解を深めることを目的とする。特に生活行為向上マネジメントについては複数回の授業を通して模擬事例に対する演習を行い実践を経験する。		
一般目標（GIO） 対 応 C C	生活行為向上マネジメント基本的な実施手順について理解する（E-1-4） 予防に寄与する基本的な作業療法について理解する（F-3-4）		

教科書	標準作業療法学専門分野 地域作業療法学第4版 事例で学ぶ生活行為向上マネジメント第2版 医歯薬出版
参考書・教材	適宜資料配布
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1	訪問・通所における作業療法の概要について説明できる	田中
2	訪問・通所における作業療法の役割について説明できる	田中
3	予防作業療法の概念について説明できる	田中
4	予防作業療法の実践ができる①	田中
5	予防作業療法の実践ができる②	田中
6	予防作業療法の実践ができる③	田中
7	予防作業療法の実践ができる④	田中
8	生活行為向上マネジメントの開発の背景について説明できる	田中
9	生活行為向上マネジメントの理論的位置づけ、生活行為について説明できる	田中
10	生活行為向上マネジメントの使い方について説明できる	田中
11	生活行為向上マネジメントを用いて事例に対する作業療法の支援を実践できる①	田中
12	生活行為向上マネジメントを用いて事例に対する作業療法の支援を実践できる②	田中
13	生活行為向上マネジメントを用いて事例に対する作業療法の支援を実践できる③	田中
14	生活行為向上マネジメントを用いて事例に対する作業療法の支援を実践できる④	田中
15	生活行為向上マネジメントを用いて事例に対する作業療法の支援を実践できる⑤	田中

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	60	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	レポート	40	

科目区分： 作業療法治療学

令和7年度

科 目 名	日常生活活動学演習	単位数	2	学科	作業	期	後期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	田中 孝博	実務 経歴	高齢者の入院施設、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション事業所において、作業療法士として日常生活活動の評価やリハビリテーションを実践した経験がある。
担 当 教 員	田中 孝博、高橋 真紀、 相馬 祐紀、谷口 賢一		
概 要	前期の日常生活活動学で学んだ内容をもとに、日常生活活動・手段的日常生活活動（IADL）の評価・実践を理解し、また疾患別の日常生活活動・IADL の支援についても説明・模擬実践できるように、実技を交えながら授業を行う。		
一般目標（GIO） 対 応 C C	・ 日常生活活動・IADL の評価について説明できる（F2-8②） ・ 日常生活活動・IADL における作業別の支援について説明・模擬実践できる（F2-8③）		

教科書	「PT・OT ビジュアルテキスト ADL 第2版」羊土社
参考書・教材	適宜資料配布
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1	日常生活活動の評価の支援について実践できる	田中
2	日常生活活動の評価の支援について実践できる	田中
3	脳血管障害の日常生活活動について説明できる	相馬
4	脳血管障害の日常生活活動について実践できる	相馬
5	脳血管障害の日常生活活動について実践できる	相馬
6	骨関節疾患の日常生活活動の支援について実践できる	谷口
7	関節リウマチの日常生活活動の支援について実践できる	谷口
8	神経変性疾患の日常生活活動の支援について実践できる	相馬
9	呼吸器疾患の日常生活活動の支援について実践できる	相馬
10	心疾患の日常生活活動の支援について実践できる	相馬
11	脊髄損傷の日常生活活動の支援について実践できる	田中
12	IADLに関する支援を説明できる	高橋
13	IADLに関する支援について実践できる	高橋
14	IADLに関する支援について実践できる	高橋
15	日常生活活動、IADLに関する評価法について実践できる	田中

成 績 評 価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	90	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	レポート	10	

科目区分： 疾病と障害の成立及び回復過程の促進

科 目 名	画像診断学	単位数	2	学科	作業	期	後期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	箕輪 和行	実務 経歴	
担 当 教 員	箕輪 和行		
概 要	近年、画像診断技術の驚異的な発展が続いている。コンピュータ断層診断（ＣＴ）、磁気共鳴画像診断（ＭＲＩ）の導入は診断能力を大きく向上させた。これら医用画像をもとに、画像診断所見や臨床情報を習得する。		
一般目標（GIO）	EBPTにつながる基本として、作業療法の実施に係る医用画像（ＣＴ、ＭＲＩ、超音波エコー画像など）の評価を理解する。対応CC：E-4-2①②③		

教科書	「PT・OTのための画像診断マニュアル」（医学教育出版社）
参考書・教材	適宜資料を配布する。
履修上の注意点	特になし

実施回	授業内容	担当教員
1	脳神経 の画像について説明できる	箕輪
2	脊髄 ：先天性病変 の画像について説明できる	箕輪
3	：腫瘍	箕輪
4	頭頸部：先天性疾患 の画像について説明できる	箕輪
5	：腫瘍	箕輪
6	胸部 ：呼吸 の画像について説明できる	箕輪
7	：心臓	箕輪
8	：大血管	箕輪
9	腹部 ：肝臓 の画像について説明できる	箕輪
10	：膵臓	箕輪
11	：脾臓	箕輪
12	消化器 の画像について説明できる	箕輪
13	骨盤 の画像について説明できる	箕輪
14	筋骨格系：肩関節・肘関節・手関節 の画像について説明できる	箕輪
15	：股関節・膝関節・足関節 の画像について説明できる	箕輪

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100%	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席
			評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 人体の構造機能及び心身の発達

科 目 名	生理学演習	単位数	2	学科	作業	期	後期
		時間数	60	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	中嶋 俊雄	実務 経歴	
担 当 教 員	中嶋 俊雄		
概 要	生理学の講義で得られた知識を実習を通して、より深く理解する。実習器具や実験装置の取り扱いを知るとともに、出来る限り詳細な記録、観察を心がけ、より深い分析力、考察力を身につける。		
一般目標（GIO）	さまざまな側面から人間を理解する上で、また、理学療法の対象疾患・障害の病態や発生メカニズムを理解する上で不可欠である基礎医学的知識を学ぶ。（対応CC：C-1）		

教科書	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野「生理学 第6版」（医学書院）
参考書・教材	講師よりプリント、動画を適宜配布
履修上の注意点	教科書の予習、講義後の復習が望まれるだけでなく、練習問題への取り組みが必須である。

実施回	授業内容	担当教員
1・2	実習の目的、進め方、レポートの書き方について説明できる	中嶋
3・4	実験結果のまとめ方、文献の調べ方、内容要約について説明できる	中嶋
5・6	循環：心電図について説明し検査を実施できる	中嶋
7・8	循環：血圧・心音・脈拍について説明し検査を実施できる	中嶋
9・10	呼吸：呼吸曲線と呼吸気量について説明し検査を実施できる	中嶋
11・12	呼吸：1秒率・呼吸運動について説明し検査を実施できる	中嶋
13・14	筋電図（基本時の筋電図）について説明し検査を実施できる	中嶋
15・16	筋電図（誘発筋電図①）について説明し検査を実施できる	中嶋
17・18	筋電図（誘発筋電図②）について説明し検査を実施できる	中嶋
19・20	筋電図：神経伝導速度について説明し検査を実施できる	中嶋
21・22	神経・筋：筋萎縮、加重・強縮について説明できる	中嶋
23・24	脳波：基本脳波について説明し検査を実施できる	中嶋
25・26	脳波：賦活脳波、睡眠脳波、誘発脳波について説明できる	中嶋
27・28	感覚：体性感覚（皮膚の感覚点・2点識別・重量感覚）について説明できる	中嶋
29・30	感覚：聴力、平衡感覚について説明できる	中嶋

成 績 評 価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席
			評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を
			総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 作業療法治療学

科 目 名	老年期障害作業療法治療学演習	単位数	2	学科	作業療法	期	後期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	高橋 真紀	実務 経歴	病院・施設・事業所などで作業療法臨床に従事した経験を十分に持つ。この経験を活かして病院から地域まで老年期作業療法の基礎知識、流れなどについて授業を行う。
担 当 教 員	高橋 真紀 田中 孝博		
概 要	老年期の特徴とリハビリテーションについての理解を深め、老年期をとりまく社会資源を知り、その連携のあり方を探る。また、老年期に対する作業療法とその役割を考える。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	高齢期障害に対する基本的な作業療法について理解する。(F-2-7)		

教 科 書	標準作業療法学（専門分野）高齢期作業療法学 第3版 医学書院 高齢期における認知症のある人の生活と作業療法 第2版 三輪書店
参 考 書 ・ 教 材	担当教員が用意するプリント
履 修 上 の 注 意 点	

実施回	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション 高齢者用体操プログラムに参加し、実施することができる	高橋
2	高齢者の時代背景を知ろう① グループにて担当の時代を調べ、現在と比較できる	高橋
3	高齢者の時代背景を知ろう② グループにて担当の時代を調べ、まとめ、表にすることができる	高橋
4	高齢者の時代背景を知ろう③ グループにて担当の時代を分担して発表することができる	高橋
5	症例検討① 症例を通して、高齢者の作業療法の流れを説明できる	高橋
6	症例検討② 症例を通して、高齢者の作業療法の流れを説明できる	高橋
7	高齢者とのコミュニケーションの特徴について説明できる	田中
8	認知症の評価について概要を説明できる	田中
9	認知症の評価について実施できる	田中
10	高齢者の評価・リハビリテーションについて事例を通して演習を行う①	田中
11	高齢者の評価・リハビリテーションについて事例を通して演習を行う②	田中
12	高齢者の評価・リハビリテーションについて事例を通して演習を行う③	田中
13	Activity 体験実習 実際に Activity を実施し、高齢者へ説明することができる	高橋
14	Activity 体験実習 実際に Activity を実施し、高齢者に配慮することができる	高橋
15	Activity 体験実習 実際に Activity を実施し、治療に関連づけることができる	高橋

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	70	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	レポート課題	30	

科目区分： 疾病と障害の成立及び回復過程の促進

(27) 令和7年度

科 目 名	リハビリテーション医学概論Ⅱ	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	中嶋 俊雄	実務 経験	
担 当 教 員	田中 孝博、谷口 賢一 高橋 真紀、相馬 祐紀		
概 要	対象者の自立や社会参加に向けた支援をする医療チームの一員として、治療に参加するために必要な基礎知識・技能を培うため、代表的疾患に対するリハビリテーション、QOLの向上、社会復帰、在宅生活などについての概要を学習する。		
一般目標（GIO）	活動制限の評価とリハビリテーション(D-3-4) 参加制約の評価とリハビリテーション(D-3-5) リハビリテーション計画(D-3-6) リハビリテーションチームと多職種連携(D-3-7) 廃用症候群(D-3-8)		

教 科 書	学生のためのリハビリテーション医学概論 第3版（医歯薬出版）
参 考 書 ・ 教 材	配布資料
履修上の注意点	特になし

実施 回	授業内容	担当教員
1	科目全体の概要、脳疾患のリハビリテーションを理解する。（血管系、外傷）	相馬
2	脳疾患のリハビリテーションを理解する。（低酸素脳症、高次脳機能障害）	相馬
3	脊髄疾患のリハビリテーションを理解する。（脊髄損傷、二分脊椎）	谷口
4	心大血管疾患のリハビリテーションを理解する。（循環器疾患）	相馬
5	呼吸器疾患のリハビリテーションを理解する。	相馬
6	がんのリハビリテーションを理解する。	高橋
7	運動器疾患のリハビリテーションを理解する。（骨折、変形性関節症）	谷口
8	運動器疾患のリハビリテーションを理解する。（切断、義肢）	谷口
9	リハビリテーションと福祉用具、福祉機器、義肢装具を理解する。	相馬
10	廃用症候群のリハビリテーション、リハビリテーション総合計画評価	相馬
11	小児期(肢体不自由児)のリハビリテーション	木谷
12	発達障害のリハビリテーション	木谷
13	精神疾患のリハビリテーション	谷口
14	高齢者のリハビリテーション	高橋
15	認知症患者リハビリテーション	田中

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	70	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度など平常評価を総合的に評価する。
	平常評価	30	

科目区分： 疾病と障害の成立及び回復過程の促進

(27) 令和6年度

科 目 名	リハビリテーション医学概論Ⅱ	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	中嶋 俊雄	実務	
担 当 教 員	(専任教員)	経験	

概 要	対象者の自立や社会参加に向けた支援をする医療チームの一員として、治療に参加するために必要な基礎知識・技能を培うため、代表的疾患に対するリハビリテーション、QOLの向上、社会復帰、在宅生活などについての概要を学習する。
-----	--

一般目標 (GIO)	活動制限の評価とリハビリテーション(D-3-4) 参加制約の評価とリハビリテーション(D-3-5) リハビリテーション計画(D-3-6) リハビリテーションチームと多職種連携(D-3-7) 廃用症候群(D-3-8)
------------	---

教 科 書	学生のためのリハビリテーション医学概論 第3版 (医歯薬出版)
参 考 書 ・ 教 材	配布資料
履修上の注意点	特になし

実施回		授業内容	SB0 (対応 CC)	担当教員
1	09/30	科目全体の概要説明、脳疾患のリハビリテーション(血管系、外傷)	D-3	白 田
2	10/07	脳疾患のリハビリテーション(低酸素脳症、高次脳機能障害)	D-3	白 田
3	10/21	脊髄疾患のリハビリテーション(脊髄損傷、二分脊椎)	D-3	白 田
4	10/28	心大血管疾患(循環器疾患)のリハビリテーション	D-3	白 田
5	11/11	呼吸器疾患のリハビリテーション	D-3	白 田
6	11/18	がんのリハビリテーション	D-3	白 田
7	11/25	運動器疾患のリハビリテーション(骨折、変形性関節症)	D-3	白 田
8	12/02	運動器疾患のリハビリテーション(切断、義肢)	D-3	白 田
9	12/09	リハビリテーションと福祉用具、福祉機器、義肢装具	D-3	白 田
10	12/16	廃用症候群のリハビリテーション、リハビリテーション総合計画評価	D-3	白 田
11	12/23	小児期(肢体不自由児)のリハビリテーション	D-3	白 田
12	01/06	発達障害のリハビリテーション	D-3	白 田
13	01/07	精神疾患のリハビリテーション	D-3	谷 口
14	01/14	高齢者のリハビリテーション	D-3	白 田
15	01/14	認知症患者リハビリテーション	D-3	白 田

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	100	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。

科 目 名	義肢装具学演習	単位数	1	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	谷口賢一、佐藤正輝	実務 経歴	整形外科領域の臨床経験から、装具を中心とした知識を有する。
担当教員	谷口賢一、佐藤正輝		

概要	装具について、スプリントを中心にすすめる。スプリントの原理、適用を考える上で必要な上肢・手の機能解剖、およびスプリントが多用される手の外科領域の作業療法（ハンドセラピー含む）について学習する。また、スプリントの基本原理について理解し、実際のスプリント製作を通して、適合判定し、スプリント療法のすすめ方を学習する。		
----	--	--	--

一般目標（GIO）	義肢装具に関わる基本的な作業療法について理解する。（F-2-9、F3-3、F2-1）		
-----------	--	--	--

教科書	リハ実践テクニック「ハンドセラピー」改訂第2版 メジカルビュー社 スプリント製作：教員配布資料		
-----	---	--	--

参考書・教材	「手のかたち 手のうごき」医歯薬出版 「手のスプリントのすべて」三輪書店		
--------	---	--	--

履修上の注意点	実際に材料、道具を用いて作製する。 作製手順について復習した上で、パートナーのスプリントを作製しますので休まないように。		
---------	---	--	--

実施回	授業内容	担当教員
1	スプリントの基本原理・適応 が言える	谷口・佐藤
2	スプリントの基本原理・適応 トレース法について実践できる	谷口・佐藤
3	スプリントの製作(Rest Sprint):レースとカッティングができる	谷口・佐藤
4	スプリントの製作(Rest Sprint:フィッティングが出来る	谷口・佐藤
5	スプリントの製作(Rest Sprint):ムージングと成形ができる	谷口・佐藤
6	スプリントの製作(Cock up Sprint):トレースとカッティングができる	谷口・佐藤
7	スプリントの製作(Cock up Sprint):フィッティングが出来る	谷口・佐藤
8	スプリントの製作(Cock up Sprint):ムージングと成形ができる	谷口・佐藤
9	スプリント製作(レナサーム使用、視聴覚授業):包帯型スプリントについて知る	谷口・佐藤
10	スプリント製作(レナサーム使用)包帯型スプリントを作製して、特性を知る	谷口・佐藤
11	自助具製作案を作成する	谷口・佐藤
12	自助具製作(グローブ製作)する	谷口・佐藤
13	自助具製作(グローブ製作) と、完成品プレゼンテーション(レポート提出)を発表する	谷口・佐藤
14	ハンドセラピーについて:特に定義・評価について知る	谷口・佐藤
15	ひとと手(手の動作分析)について知る	谷口・佐藤

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	90	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験と装具製作計 60 点以上および平常評価を総合的に評価する。
	装具製作	10	

科 目 名	疾患別作業療法評価学演習Ⅱ	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	相馬 祐紀	実務 経験	総合病院や訪問看護ステーションでの勤務経験があり、中枢神経疾患や神経変性疾患、内部障害について幅広い知識を有している。この経験を活かして疾患特性に応じた評価法について授業を行う。
担 当 教 員	相馬 祐紀 谷口 賢一 高橋 真紀		
概 要	運動器障害・神経障害・内部障害により生じる代表的疾患に対する、基本的な評価方法や知識を座学で学習する。その後、評価のオリエンテーション、実技、結果の記載、結果の解釈を、模擬評価を中心とした授業形態で行う。		
一般目標（GIO）	・運動器障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる（F1-2 ①②） ・神経障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる（F1-3 ①②） ・内部障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる（F1-4 ①②）		

教科書	・「標準作業療法学 作業療法評価学 第4版」 医学書院
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1・2	高次脳機能障害① 画像評価、評価方法、結果の解釈ができる	相馬
3・4	高次脳機能障害② 画像評価、評価方法、結果の解釈ができる	相馬
5・6	動作分析① 基本動作から ADL における様々な動作分析ができる	相馬
7・8	動作分析② 基本動作から ADL における様々な動作分析ができる	相馬
9・10	動作分析③ 疾患による異常動作を理解し動作分析ができる	相馬
11・12	動作分析④ 疾患による異常動作を理解し動作分析ができる	相馬
13・14	神経筋疾患① 障害に適した評価を選択、実践し結果を解釈できる	相馬
15・16	神経筋疾患② 障害に適した評価を選択、実践し結果を解釈できる	相馬
17・18	手外科、末梢神経障害 障害に適した評価を選択、実践し結果を解釈できる	谷口
19・20	熱傷、切断 障害に適した評価を選択、実践し結果を解釈できる	谷口
21・22	終末期作業療法 障害に適した評価を選択、実践し結果を解釈できる	高橋
23・24	脊髄損傷① 障害に適した評価を選択、実践し結果を解釈できる	谷口
25・26	脊髄損傷② 障害に適した評価を選択、実践し結果を解釈できる	谷口
27・28	嚥下障害（喀痰、吸引含む） 障害に適した評価を選択、実践し結果を解釈できる	相馬
29・30	糖尿病 障害に適した評価を選択、実践し結果を解釈できる	相馬

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	70	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常評価	30	

科 目 名	疾患別作業療法評価学演習Ⅱ	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、運動器障害、神経障害、内部障害の評価に従事した。
担当教員	白田 典正、谷口 賢一 高橋 真紀		
概 要	運動器障害・神経障害・内部障害により生じる代表的疾患に対する、基本的な評価方法や知識を座学で学習する。その後、評価のオリエンテーション、実技、結果の記載、結果の解釈を、模擬評価を中心とした授業形態で行う。		
一般目標（GIO）	・運動器障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる（F1-2 ①②） ・神経障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる（F1-3 ①②） ・内部障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる（F1-4 ①②）		

教科書	・「標準作業療法学 作業療法評価学 第2版」 医学書院 ・「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」 羊土社
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	

実施回		授業内容	SB0 (対応 CC)	担当教員
1・2	09/20	高次脳機能障害①☆	F1-3 ①②	福岡
3・4	09/26	高次脳機能障害②☆	F1-3 ①②	福岡
5・6	10/01	動作分析①	F1-3 ①②	福岡
7・8	10/08	動作分析②	F1-3 ①②	福岡
9・10	10/15	動作分析③	F1-3 ①②	福岡
11・12	10/22	動作分析④	F1-3 ①②	福岡
13・14	10/29	神経筋疾患①☆	F1-3 ①②	福岡
15・16	11/05	神経筋疾患②☆	F1-3 ①②	福岡
17・18	11/12	<u>手外科、末梢神経障害☆</u>	F1-2 ①②	谷口
19・20	11/19	<u>熱傷、切断☆</u>	F1-2 ①②	谷口
21・22	11/26	終末期作業療法☆	F1-2 ①②	高橋
23・24	12/03	<u>脊髄損傷①☆</u>	F1-2 ①②	田中
25・26	12/10	<u>脊髄損傷②☆</u>	F1-3 ①②	田中
27・28	12/17	嚥下障害（喀痰、吸引含む）☆	F1-4 ①②	白田
29・30	12/24	糖尿病☆	F1-4 ①②	白田

成 績 評 価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	60	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験およびレポート得点を合算して60点以上。また、出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	レポート	40	

科 目 名	身体機能作業療法治療学演習Ⅱ	単位数	3	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	90	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	相馬 祐紀	実務 経験	総合病院や訪問看護ステーションでの勤務経験があり、中枢神経疾患や神経変性疾患、内部障害について幅広い知識を有している。この経験を活かして疾患特性に応じた評価法について授業を行う。
担 当 教 員	相馬 祐紀 田中 孝博 谷口 賢一 高橋 真紀		
概 要	終末期の基本的な作業療法について理解を深める。また、身体障害、内部障害、高次脳機能障害の代表的疾患に対する生活障害の特性、予後、基本的な作業療法について説明・模擬実践ができるように、座学と実技を平衡して学習を行う。		
一般目標（GIO）	・身体障害を生じる代表的疾患に対して、生活障害の特性、予後、基本的な作業療法について説明・模擬実践できる（F2-1 ①②④） ・内部障害を生じる代表的疾患に対して、生活障害の特性、予後、基本的な作業療法について説明・模擬実践できる（F2-2 ①～③） ・終末期の基本的な作業療法について理解する（F2-3 ①～⑥） ・各高次脳機能障害の特性、予後、作業療法について説明・模擬実践できる（F2-4 ①②③）		
教 科 書	・「PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学Ⅰ 骨関節・神経疾患偏」 羊土社 ・「PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学Ⅰ 内部疾患偏」 羊土社 ・「リハ実践テクニック 脳卒中 改訂第3版」 メジカルビュー社		
参 考 書 ・ 教 材	適宜資料を配布する		
履修上の注意点			

実施回	授業内容	担当教員
1 2 3	高次脳機能障害に対する代表的な作業療法を実践できる①	相馬
4 5 6	高次脳機能障害に対する代表的な作業療法を実践できる②	相馬
7 8 9	高次脳機能障害に対する代表的な作業療法を実践できる③	相馬
10 11 12	高次脳機能障害に対する代表的な作業療法を実践できる④	相馬
13 14 15	脳血管障害に対する代表的な作業療法を実践できる①	相馬
16 17 18	脳血管障害に対する代表的な作業療法を実践できる②	相馬
19 20 21	脳血管障害に対する代表的な作業療法を実践できる③	相馬
22 23 24	神経筋疾患に対する代表的な作業療法を実践できる	相馬
25 26 27	手外科・末梢神経障害に対する代表的な作業療法を実践できる	谷口
28 29 30	熱傷、切断に対する代表的な作業療法を実践できる	谷口
31 32 33	終末期の代表的な作業療法を実践できる	高橋
34 35 36	脊髄損傷に対する代表的な作業療法を実践できる	田中
37 38 39	脊髄損傷に対する代表的な作業療法を実践できる	田中
40 41 42	嚥下障害（喀痰、吸引含む）に対する代表的な作業療法を実践できる	相馬
43 44 45	糖尿病に対する代表的な作業療法を実践できる	相馬

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	70	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常評価	30	

科目区分： 作業療法治療学

(45) 令和6年度

科 目 名	身体機能作業療法治療学演習Ⅱ	単位数	3	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	90	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、身体障害の作業療法に従事した。
担 当 教 員	白田 典正 谷口 賢一 高橋 真紀		
概 要	終末期の基本的な作業療法について理解を深める。また、身体障害、内部障害、高次脳機能障害の代表的疾患に対する生活障害の特性、予後、基本的な作業療法について説明・模擬実践ができるように、座学と実技を平衡して学習を行う。		
一般目標（GIO）	・身体障害を生じる代表的疾患に対して、生活障害の特性、予後、基本的な作業療法について説明・模擬実践できる（F2-1 ①②④） ・内部障害を生じる代表的疾患に対して、生活障害の特性、予後、基本的な作業療法について説明・模擬実践できる（F2-2 ①～③） ・終末期の基本的な作業療法について理解する（F2-3 ①～⑥） ・各高次脳機能障害の特性、予後、作業療法について説明・模擬実践できる（F2-4 ①②③）		
教 科 書	・「PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学Ⅰ 骨関節・神経疾患偏」 羊土社 ・「PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学Ⅰ 内部疾患偏」 羊土社 ・「リハ実践テクニック 脳卒中 改訂第3版」 メジカルビュー社		
参 考 書 ・ 教 材	適宜資料を配布する		
履修上の注意点			

実施回		授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1 2 3	09/19	高次脳機能障害①☆	F2-4 ①②③	福岡
4 5 6	09/24	高次脳機能障害②☆	F2-4 ①②③	福岡
7 8 9	10/03	高次脳機能障害③	F2-4 ①②③	福岡
10 11 12	10/09	高次脳機能障害④	F2-1 ①②④	福岡
13 14 15	10/16	脳血管障害①	F2-1 ④	谷口
16 17 18	10/23	脳血管障害②	F2-1 ④	谷口
19 20 21	10/30	脳血管障害③	F2-4 ①②③	谷口
22 23 24	11/06	神経筋疾患☆	F2-1 ①②④	福岡
25 26 27	11/13	手外科・末梢神経障害☆	F2-1 ①②④	谷口
28 29 30	11/20	熱傷、切断☆	F2-1 ①②④	谷口
31 32 33	11/27	終末期作業療法☆	F2-1 ①②④	高橋
34 35 36	12/04	脊髄損傷①☆	F2-1 ①②④	田中
37 38 39	12/11	脊髄損傷②☆	F2-1 ①②④	田中
40 41 42	12/18	嚥下障害（喀痰、吸引含む）☆	F2-2 ①～③	白田
43 44 45	12/25	糖尿病☆	F2-2 ①～⑥	白田

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験およびレポート得点を合算して60点以上。また、出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	レポート	0	

科目区分： 作業療法治療学

科 目 名	発達障害作業療法治療学	単位数	1	学科	作業	期	前期
		時間数	15	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	木谷 優矢	実務 経歴	小児を対象とした作業療法の実務経験を有する。その経験を基に事例等も活かして授業をおこなう。
担 当 教 員	木谷 優矢		
概 要	小児に関する代表的疾患について生活障害の特性、予後、評価と基本的な作業療法について座学で基本的知識を習得後、模擬実践できるように実技・グループワーク等にて学習を行う		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	・ 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる (F2-6 ①) ・ 疾患ごとの予後について説明できる (F2-6 ②) ・ 疾患ごとの評価と作業療法について説明・模擬実践できる (F-2-6 ③)		

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 第3版
参考書・教材	適宜資料配布
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1.	小児期の障害領域における作業療法の理念と目的、全体像を学び説明できるようになる。	木谷
2.	小児期の障害領域における作業療法の理念と目的、全体像を学び説明できるようになる。	木谷
3.	定型発達を学び、正常に育った場合と障害を有する場合の違いを説明することができる	木谷
4.	定型発達を学び、正常に育った場合と障害を有する場合の違いを説明することができる	木谷
5.	定型発達を学び、正常に育った場合と障害を有する場合の違いを説明することができる	木谷
6.	定型発達を学び、正常に育った場合と障害を有する場合の違いを説明することができる	木谷
7.	定型発達を学び、正常に育った場合と障害を有する場合の違いを説明することができる	木谷
8.	定型発達を学び、正常に育った場合と障害を有する場合の違いを説明することができる	木谷

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	50	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	授業態度	50	

科目区分： 人体の構造機能及び心身の発達

科 目 名	解剖学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	中嶋 俊雄	実務 経歴	
担当教員	中嶋 俊雄		
概要	人体の構造を学び、各器官の形態と機能について理解を深める。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C			

教科書	「標準理学療法学 作業療法学 専門基礎分野 解剖学」第6版（医学書院）
参考書・教材	講師配布資料
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1	<総論> ① 人体の区分と身体各部の名称	中嶋
2	② 全身の骨格の構造と骨の名称	中嶋
3	<各論> 頭部、顔面部、頸部の解剖 ① 脳と脊髄	中嶋
4	② 目、耳、鼻	中嶋
5	③ 口腔、咽頭、喉頭	中嶋
6	胸部の解剖 ① 呼吸器（肺と気管）	中嶋
7	② 循環器（心臓と血管）	中嶋
8	腹部の解剖 ① 消化器（胃、小腸、大腸、肝臓、膵・脾臓）	中嶋
9	② 泌尿器（腎臓、膀胱）、生殖器	中嶋
10	上肢の解剖 ① 肩甲骨、骨格と筋肉	中嶋
11	② 上肢の血管と神経、手の骨格と筋肉	中嶋
12	下肢の解剖 ① 下肢の骨格と筋肉	中嶋
13	② 下肢の骨格と血管、足の骨格と筋肉	中嶋
14	全身に広がる神経網、内分泌	中嶋
15	<総まとめ>	中嶋

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	100	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 人体の構造機能及び心身の発達

科 目 名	生理学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	福島 和明	実務 経歴	
担 当 教 員	福島 和明		
概 要	生体は、高度に機能分化した細胞から構成され、一定の機能を有する細胞が集合して組織や臓器を構成している。そしてこれらが特定の機能を営む系を構成している。これら系は、それぞれ作用を及ぼし合い調和した生命現象を営んでいる。これら生命現象の機構、意義についての理解を進める。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	1. 人体を構成する各要素(細胞 - 組織 - 器官)に分解してその個々の機能を理解し、それら要素間の相互 関係や統合関係を説明できる。 2. 人体の運動機能を構成する神経系、感覚器の形態及び生理機能を説明し、外的刺激に対する人体の反射・反応、運動・活動のしくみ(メカニズム)について構造(形態)機能を一体的に説明できる。		

教科書	「標準理学療法学 作業療法学 専門基礎分野 解剖学」第6版(医学書院)
参考書・教材	講師配布資料
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1	生命の現象と人体、細胞の構造と機能	福島
2	静止電位と活動電位、神経の興奮伝導、末梢神経の種類	福島
3	中枢神経構造と機能 脊髄の構造と機能(脊髄反射)	福島
4	小脳・間脳(視床、視床下部)・大脳基底核と脳梁・大脳皮質の機能	福島
5	筋の分類、骨間筋・神経筋接合部の構造と機能、骨格筋の興奮収縮連関	福島
6	筋紡錘とGolgi腱器官、筋電図、平滑筋と心筋、骨の構造と形成・吸収	福島
7	感覚(体性感覚・内臓感覚)、特殊感覚; 視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、臭覚	福島
8	血液の組成と機能、止血機構、身体の防御機能(免疫)	福島
9	心臓の働きと全身の循環経路、心臓の興奮と刺激伝導系	福島
10	心電図 血液の拍出と血圧、心周期	福島
11	呼吸器系の構造と機能、呼吸運動と呼吸気量、ガス交換、呼吸の調節	福島
12	腎臓の構造と機能(腎小体、Henle ループ、集合体)、酸塩基平衡	福島
13	消化器の構造と機能(胃、十二指腸、空腸・回腸・大腸での消化・吸収)	福島
14	内分泌ホルモンの種類と役割、各栄養素の意義と代謝	福島
15	生殖の発生・成長と老化、運動生理	福島

成 績 評 価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。

科目区分： 作業療法治療学

令和7年度

科 目 名	作業療法研究	単位数	1	学科	作業	期	前期
		時間数	15	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	田中 孝博	実務 経歴	日本作業療法学会、北海道作業療法学会学術大会などで複数の研究・発表を行った経験あり。
担 当 教 員	田中 孝博		
概 要	研究の考え方, 研究過程, 研究デザイン, の学習を通して, 研究の実践や文献抄読をするうえで必要な基本的知識、批判的思考の習得を図る。また, 保健・医療・福祉領域からの先行研究資料や文献等の資料収集, 実験および調査の方法や得られたデータの整理と解釈の学習を通じて研究疑問の作成や、研究計画立案等で注意しなければならない要点についても学習する。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	作業療法学研究における倫理の必要性和配慮の具体を学ぶ。(H-1)①、②、③、④		

教科書	PT・OTのための臨床研究 はじめの一步 羊土社
参考書・教材	適宜資料配布
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1	作業療法研究法の概論 なぜ研究が必要か、研究とは何をするのかを説明できる	田中
2	研究の準備として必要なことを説明できる	田中
3	問題の定式化、研究デザインの種類について説明できる	田中
4	データの処理、統計解析についてイメージできる	田中
5	尺度、統計量について説明できる	田中
6	研究の結果の解釈の仕方、研究の強み・弱みを説明できる	田中
7	臨床疑問から研究を計画する流れを説明できる	田中
8	研究計画書の作成の方法について説明できる	田中

成 績 評 価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	80	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	レポート	20	

科目区分： 作業療法治療学

令和7年度

科 目 名	日常生活活動学	単位数	2	学科	作業	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	田中 孝博	実務 経歴	高齢者の入院施設、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション事業所において、作業療法士として日常生活活動の評価やリハビリテーションを実践した経験がある。
担 当 教 員	田中 孝博、高橋 真紀 木谷 優矢		
概 要	日常生活活動・手段的日常生活活動（IADL）に対する作業療法の概念、評価、作業別支援について理解し、説明できることを目標に座学・演習を組み合わせた授業を行う。		
一般目標（GIO） 対 応 C C	・日常生活活動・IADL の概念について説明できる（F2-8①） ・日常生活活動・IADL の評価について説明できる（F2-8②） ・日常生活活動・IADL における作業別の支援について説明・模擬実践できる（F2-8③）		

教科書	「PT・OT ビジュアルテキスト ADL 第2版」羊土社
参考書・教材	適宜資料配布
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1	日常生活活動の概念について説明できる	田中
2	日常生活活動の評価について説明できる	田中
3	起居について動作の意味や目的を説明できる	木谷
4	移乗について動作の意味や目的を説明できる	木谷
5	移動について動作の意味や目的を説明できる	木谷
6	外出（交通機関の利用、自動車運転など）について動作の意味や目的を説明できる	田中
7	食事について動作の意味や目的を説明できる	田中
8	整容・更衣について動作の意味や目的を説明できる	田中
9	排泄・入浴について動作の意味や目的を説明できる	田中
10	基礎的な移乗とその介助法について実践できる	木谷
11	基礎的な移乗とその介助法について実践できる	木谷
12	炊事について活動の意味や目的を説明できる	高橋
13	掃除について活動の意味や目的を説明できる	高橋
14	買い物・経済管理、睡眠・栄養・運動について活動の意味や目的を説明できる	高橋
15	趣味活動・社会参加について活動の意味や目的を説明できる	高橋

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	90	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	レポート	10	

科目区分： 作業療法治療学

令和7年度

科 目 名	作業療法研究演習	単位数	1	学科	作業	期	前期
		時間数	30	学年	3	区分	必修

科目担当責任者	田中 孝博	実務 経歴	日本作業療法学会、北海道作業療法学会学術大会などで複数の研究・発表を行った経験あり。
担 当 教 員	田中 孝博		
概 要	リハビリテーションに関する研究テーマについて学び、研究仮説設定、先行研究資料、文献等の資料収集等を通じ、臨床総合実習に向けての評価、介入手法などの考え方の基礎知識を確認する。作業療法の手段に関する文献や臨床症例報告、症例研究の抄読、実験研究の内容について検討を行う。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	作業療法の職場管理において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について学ぶ。[作業療法部門管理 (E-2-1)、作業療法教育 (E-2-2)]		

教科書	「作業療法研究法」第2版 医学書院
参考書・教材	事例集等の資料を配布。
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1	作業療法研究法の概論 なぜ研究が必要か、研究とは何をするのかを説明できる	田中
2	研究の準備として必要なことを説明できる	田中
3	問題の定式化、研究デザインの種類について説明できる	田中
4	尺度、データの処理、統計解析、統計量についてイメージできる	田中
5	臨床疑問から研究計画書を作成する方法について説明できる	田中
6	発表に向けて研究疑問を設定できる	田中
7	研究疑問について発表できる	田中
8	研究疑問に関する論文を検索することができる	田中
9	研究疑問に関する論文を検索することができる	田中
10	発表に向けた資料を作成することができる	田中
11	発表に向けた資料を作成することができる	田中
12	発表に向けた資料を作成することができる	田中
13	発表し、他者と発表に関する質疑応答ができる	田中
14	発表し、他者と発表に関する質疑応答ができる	田中
15	研究デザインや尺度、統計解析について国家試験の過去問を解くことができる	田中

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	50	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	レポート	50	

科目区分： 保健医療福祉リハビリテーションの理念

令和 7 年度

科 目 名	リハビリテーション医学概論Ⅰ	単位数	2	学科	作業	期	前期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	中嶋 俊雄	実務 経歴	
担 当 教 員	中嶋 俊雄		
概 要	対象者の自立や社会参加に向けた支援をする医療チームの一員として、治療に参加するために必要な基礎知識・技能を培うため、代表的疾患に対するリハビリテーション、QOLの向上、社会復帰、在宅生活などについての学習を行う。		
一般目標（GIO）	リハビリテーションに関わる障害の評価と治療、他職種連携について学ぶ。 （対応CC：D-3）		

教科書	学生のためのリハビリテーション医学概論第4版（医歯薬出版）
参考書・教材	動画を適宜配布
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1	リハビリテーション医学とは何か説明できる	中嶋
2	診断と評価について説明できる	中嶋
3	廃用症候群、誤用症候群、過用症候群について説明できる	中嶋
4	筋疾患、筋ジストロフィーについて説明できる	中嶋
5	関節疾患、慢性関節リウマチ、人工関節について説明できる	中嶋
6	脊髄損傷について説明できる	中嶋
7	脊髄疾患（二分脊髄を含む）について説明できる	中嶋
8	発達障害について説明できる	中嶋
9	末梢神経障害について説明できる	中嶋
10	脳性麻痺について説明できる	中嶋
11	脳血管障害について説明できる	中嶋
12	切断と義肢について説明できる	中嶋
13	高齢者リハビリテーションについて説明できる	中嶋
14	ハイリスク疾患、癌のリハビリテーションについて説明できる	中嶋
15	内部障害について説明できる	中嶋

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席
			評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を
			総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 専門科目

科 目 名	基礎作業療法学演習	単位数	2	学科	作業療法	期	前期
		時間数	60	学年	2年	区分	必修

科目担当責任者	高橋真紀	実務 経歴	病院・施設・事業所などで作業療法臨床に従事した経験を十分に持つ。この経験を活かして病院から地域まで作業療法の基礎知識、態度・対応、技術（観察、記録等）などについて授業を行う。
担当教員	高橋真紀		
概要	作業に関する基礎知識について理解すると共に、各種作業活動についての作業療法技術を修得する。		
一般目標（GIO） 対応 C C	作業を治療に用いる際に必要となる基本的な知識と技術を修得する。（E-1） 職業人としての常識的態度を身につける。（G-1） 専門職としての態度、責任ある行動を身につける。（G-1）		

教科書	作業療法ゴールドマスターテキスト改訂第3版 作業学 メジカルビュー社
参考書・教材	作業―その治療的応用 改訂第3版 協同医書出版
履修上の注意点	グループ活動が中心となる。協調して参加してほしい。

実施回	授業内容		担当教員
1	オリエンテーション・グループ作りや片手作業体験を協調してできる		高 橋
2	グループにて「ちらしで箱を作る」の作業分析を協調してできる		高 橋
3	グループにて担当作業活動の資料作り、作戦立てを協調してすすめる		高 橋
4	グループにて担当作業活動の資料作り、作戦立てを協調して完成させ、提出する		高 橋
5	あんでるせん	担当作業活動を実施するときは OTS 役になり、 その他の学生は対象者役となる。	高 橋
6			高 橋
7	タイルモザイク	OTS 役は担当対象者（学生）を 1 人決める。	高 橋
8			高 橋
9	木工	臨床場面を想定し、OTS として課題を時間内に 一緒に完成させる。	高 橋
10			高 橋
11	陶芸	その場면을観察・考察・記録し、次の日、提出する。	高 橋
12			高 橋
13	革細工		高 橋
14			高 橋
15	全員で作業活動を経験する。（お手玉づくり・ミサンガ・雑巾縫い・ボタンつけ）		高 橋

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	45	受験資格：総授業時間数の 2 / 3 以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	レポート	25	
	参加態度	30	

科目区分： 作業療法評価学

令和 年度

科 目 名	基礎作業療法評価学演習 I	単位数	2	学科	作業	期	前期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	木谷 優矢	実務 経歴	身体障害患者を対象とした臨床経験を有する。その経験を基に作業療法では基礎となる関節可動域測定、徒手筋力検査について授業を行なう。
担 当 教 員	木谷 優矢		
概 要	本科目では評価学の基礎、対象者の心身の状態を把握するのに必要な領域共通の各種検査測定等の評価方法及びその実施について学習する。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	対象者にとって意味ある作業が可能かどうかを探求するためやその支援のために必要な評価に関する知識と技術を習得する。 (F-1)		

教科書	MMT 適切な検査肢位の設定と代償運動の制御
参考書・教材	適宜資料配布
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1. 2	関節可動域測定 (ROM-T) の基礎事項を学び、他動運動、角度計の見方を説明・実施できるようになる。	木谷
3. 4	関節可動域測定 (ROM-T) 上肢の計測方法を実施できる。	木谷
5. 6	関節可動域測定 (ROM-T) 上肢の計測方法を実施できる。	木谷
7. 8	関節可動域測定 (ROM-T) 下肢の計測方法を実施できる。	木谷
9. 10	関節可動域測定 (ROM-T) 下肢の計測方法を実施できる。	木谷
11. 12	関節可動域測定 (ROM-T) 体幹の計測方法を実施できる。	木谷
13. 14	確認試験 (筆記・実技)	木谷
15. 16	徒手筋力テスト (MMT) の基礎事項を学び、ブレイクテストを実施できるようになる。	木谷
17. 18	徒手筋力テスト (MMT) 上肢の計測方法を実施できる。	木谷
19. 20	徒手筋力テスト (MMT) 上肢の計測方法を実施できる。	木谷
21. 22	徒手筋力テスト (MMT) 下肢の計測方法を実施できる。	木谷
23. 24	徒手筋力テスト (MMT) 下肢の計測方法を実施できる。	木谷
25. 26	徒手筋力テスト (MMT) 頸部体幹の計測方法を実施できる。	木谷
27. 28	徒手筋力テスト (MMT) 頸部体幹の計測方法を実施できる。	木谷
29. 30	確認試験 (筆記・実技)	木谷

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	40	受験資格：総授業時間数の 2 / 3 以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価 (実習・実技を含む) 及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	確認試験	30	
	授業態度	30	

科 目 名	義肢装具学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	谷口 賢一	実務 経歴	整形外科領域の臨床経験から、装具を中心とした知識を有する。
担 当 教 員	谷口 賢一 佐藤 正輝		
概 要	切断および義肢についての基礎知識を学習し、各種義手の基本操作、構造を理解する。また、現在、作業療法における装具学の必要性は極めて重要である。基礎知識を学習した上で、治療・訓練・保存用に使用する各種装具の機能・構造・組み立ての技術・チェックポイントを学習する。		
一般目標（GIO）	義肢装具に関わる基本的な作業療法について理解する。（F-2-9、F-3-3）		

教 科 書	「義肢装具と作業療法」 医歯薬出版	教員配布資料
参 考 書 ・ 教 材	「OT 全書 義肢装具学」 協同医書出版	「義肢装具学」 医学書院 「義肢装具のチェックポイント第8版」 医学書院
履 修 上 の 注 意 点	実物の確認、操作などを通して理解度を高めていきます。	

実施 回	授業内容	担当教員
1	義肢・装具とは：義肢と装具の定義が言える	谷口・佐藤
2	切断とは：上肢と下肢の切断の基礎がわかる	谷口・佐藤
3	義手の分類・部品：図を見て説明する	谷口・佐藤
4	義手の訓練・check out：前腕義手と上腕義手について説明できる	谷口・佐藤
5	義手装着の評価・訓練、国家試験問題に取り組める	谷口・佐藤
6	筋電義手について：基礎がわかる	谷口・佐藤
7	装具の分類、作業療法士の役割と機能が言える	谷口・佐藤
8	上肢装具・スプリントについて：分類できる	谷口・佐藤
9	上肢装具・スプリントのチェックアウトについて説明できる	谷口・佐藤
10	上肢装具・スプリントと治療・訓練を知る	谷口・佐藤
11	義肢・装具の適応疾患（末梢神経損傷、頸髄損傷）とその治療を知る	谷口・佐藤
12	義肢・装具の適応疾患（慢性関節リウマチ）とその治療を知る	谷口・佐藤
13	義肢・装具の適応疾患（脳血管障害、その他）とその治療を知る	谷口・佐藤
14	上肢装具に関する国家試験問題取り組む	谷口・佐藤
15	自助具の定義・基礎を知る。前期分の復習をする。	谷口・佐藤

成 績 評 価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験		受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席
			評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 作業療法評価学

科 目 名	疾患別作業療法評価学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	相馬 祐紀	実務 経歴	総合病院や訪問看護ステーションでの勤務経験があり、中枢神経疾患や神経変性疾患、内部障害について幅広い知識を有している。この経験を活かして疾患特性に応じた評価法について授業を行う。
担当教員	谷口 賢一		
概要	神経障害・内部障害により生じる代表的疾患に対する評価の基礎知識を学習する。授業は実際の評価用紙の使用やデモンストレーション、画像読影などを交えた形態とする。また、評価に必要な画像読影の基礎知識も習得する。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	・ 運動器・神経・内部障害を生じる代表的疾患に対する画像評価について説明できる (F1-2, 3, 4 ①) ・ 神経障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む作業療法評価について説明できる (F-1-3 ①) ・ 内部障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む作業療法評価について説明できる (F-1-4 ①)		

教科書	・「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」 医学書院
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション、評価の基礎:評価の意義や目的を理解する	相馬
2	画像読影① 中枢神経系の画像所見を理解する	相馬
3	画像読影② 内部障害、骨関節疾患の画像所見を理解する	相馬
4	呼吸器疾患① 呼吸器疾患の病態や症状、評価ポイントを理解する	相馬
5	呼吸器疾患② 呼吸器疾患の病態や症状、評価ポイントを理解する	相馬
6	循環器疾患① 循環器疾患の病態や症状、評価ポイントを理解する	相馬
7	循環器疾患② 循環器疾患の病態や症状、評価ポイントを理解する	相馬
8	脳血管障害① 脳血管疾患の病態や症状、評価ポイントを理解する	相馬
9	脳血管障害② 脳血管疾患の病態や症状、評価ポイントを理解する	相馬
10	外傷性脳損傷① 外傷性脳損傷の病態や症状、評価ポイントを理解する	相馬
11	外傷性脳損傷② 外傷性脳損傷の病態や症状、評価ポイントを理解する	相馬
12	関節リウマチ 関節リウマチの病態や症状、評価ポイントを理解する	谷口
13	骨関節疾患 骨関節疾患の病態や症状、評価ポイントを理解する	谷口
14	神経変性疾患① 神経変性疾患の病態や症状、評価ポイントを理解する	相馬
15	神経変性疾患② 神経変性疾患の病態や症状、評価ポイントを理解する	相馬

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	80	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常評価	20	

科目区分： 作業療法評価学

科 目 名	疾患別作業療法評価学演習 I	単位数	1	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	相馬 祐紀	実務 経歴	総合病院や訪問看護ステーションでの勤務経験があり、中枢神経疾患や神経変性疾患、内部障害について幅広い知識を有している。この経験を活かして疾患特性に応じた評価法について授業を行う。
担 当 教 員	谷口 賢一		
概 要	神経障害・内部障害により生じる代表的疾患に対する評価の知識を振り返ると共に、評価のオリエンテーション、実技、結果の記載、結果の解釈を、模擬評価を中心とした授業形態で行う。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	・運動器・神経・内部障害を生じる代表的疾患に対する画像評価について説明できる (F1-2, 3, 4 ①) ・神経障害を生じる代表的疾患に対して、評価の主たるものを模擬実践できる (F-1-3 ②) ・内部障害を生じる代表的疾患に対して、評価の主たるものを模擬実践できる (F-1-4 ②)		

教科書	「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」 医学書院
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション、評価の基礎:評価の意義や目的について説明できる	相馬
2	画像読影① 中枢神経系の画像所見が説明できる	相馬
3	画像読影② 内部障害、骨関節疾患の画像所見が説明できる	相馬
4	呼吸器疾患① 呼吸器疾患に対する評価を実践できる	相馬
5	呼吸器疾患② 呼吸器疾患に対する評価を実践できる	相馬
6	循環器疾患① 循環器疾患に対する評価を実践できる	相馬
7	循環器疾患② 循環器疾患に対する評価を実践できる	相馬
8	脳血管障害① 脳血管疾患に対する評価を実践できる	相馬
9	脳血管障害② 脳血管疾患に対する評価を実践できる	相馬
10	外傷性脳損傷① 外傷性脳損傷に対する評価を実践できる	相馬
11	外傷性脳損傷② 外傷性脳損傷に対する評価を実践できる	相馬
12	関節リウマチ 関節リウマチに対する評価を実践できる	谷口
13	骨関節疾患 骨関節疾患に対する評価を実践できる	谷口
14	神経変性疾患① 神経変性疾患に対する評価を実践できる	相馬
15	神経変性疾患② 神経変性疾患に対する評価を実践できる	相馬

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	レポート課題	80	受験資格：総授業時間数の 2 / 3 以上の出席 評価要領：レポート課題における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常評価	20	

科目区分： 作業療法評価学

科 目 名	身体機能作業療法治療学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	相馬 祐紀	実務 経歴	総合病院や訪問看護ステーションでの勤務経験があり、中枢神経疾患や神経変性疾患、内部障害について幅広い知識を有している。この経験を活かして疾患特性に応じた評価法について授業を行う。
担当教員	谷口 賢一		
概要	治療原理について実技を通して学習する。また身体障害、内部障害の代表的疾患に対する生活障害の特性、予後、基本的な作業療法について座学を中心に学習を行う。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	・運動器・神経・内部障害を生じる代表的疾患に対する画像評価について説明できる (F1-2, 3, 4 ①) ・神経障害を生じる代表的疾患に対して、評価の主たるものを模擬実践できる (F-1-3 ②) ・内部障害を生じる代表的疾患に対して、評価の主たるものを模擬実践できる (F-1-4 ②)		

教科書	・「PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学Ⅰ 骨関節・神経疾患偏」 羊土社 ・「PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学Ⅰ 内部疾患偏」 羊土社 ・「リハ実践テクニック 脳卒中 改訂第4版」 メジカルビュー社		
参考書・教材	適宜資料を配布する		
履修上の注意点			

実施回	授業内容	担当教員
1	治療原理①「関節可動域」 関節可動域の基礎とアプローチ方法を理解する	相馬
2	治療原理②「知覚再学習」 感覚・知覚の基礎とアプローチ方法を理解する	相馬
3	治療原理③「筋力の維持・増強」 筋の基礎とアプローチ方法を理解する	相馬
4	呼吸器疾患① 代表的な呼吸器疾患に対する作業療法を理解できる	相馬
5	呼吸器疾患② 代表的な呼吸器疾患に対する作業療法を理解できる	相馬
6	循環器疾患① 代表的な循環器疾患に対する作業療法を理解できる	相馬
7	循環器疾患② 代表的な循環器疾患に対する作業療法を理解できる	相馬
8	脳血管障害① 脳血管障害に対する作業療法を理解できる	相馬
9	脳血管障害② 脳血管疾患に対する作業療法を理解できる	相馬
10	外傷性脳損傷① 外傷性脳損傷に対する作業療法を理解できる	相馬
11	外傷性脳損傷② 外傷性脳損傷に対する作業療法を理解できる	相馬
12	関節リウマチ 関節リウマチに対する作業療法を理解できる	谷口
13	骨関節疾患 骨関節疾患に対する作業療法を理解できる	谷口
14	神経変性疾患① 神経変性疾患に対する作業療法を理解できる	相馬
15	神経変性疾患② 神経変性疾患に対する作業療法を理解できる	相馬

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	70	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常評価	30	

科目区分： 作業療法評価学

科 目 名	身体機能作業療法治療学演習Ⅰ	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	相馬 祐紀	実務 経歴	総合病院や訪問看護ステーションでの勤務経験があり、中枢神経疾患や神経変性疾患、内部障害について幅広い知識を有している。この経験を活かして疾患特性に応じた評価法について授業を行う。
担 当 教 員	谷口 賢一		
概 要	治療原理について実技を通して学習する。また身体障害、内部障害の代表的疾患に対する基本的な作業療法に対して模擬実践を主体とした授業で学習する。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	・ 治療原理について説明できる (F2-1③) ・ 身体障害を生じる代表的疾患に対して、作業療法の説明・模擬実践ができる (F2-1 ④) ・ 内部障害を生じる代表的疾患に対して、作業療法の説明・模擬実践ができる (F2-2 ③)		

教科書	・「PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学Ⅰ 骨関節・神経疾患偏」 羊土社 ・「PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学Ⅰ 内部疾患偏」 羊土社 ・「リハ実践テクニック 脳卒中 改訂第4版」 メジカルビュー社		
参考書・教材	適宜資料を配布する		
履修上の注意点			

実施回	授業内容	担当教員
1	治療原理①「関節可動域」 関節可動域の基礎とアプローチ方法を実践できる	相馬
2	治療原理②「知覚再学習」 感覚・知覚の基礎とアプローチ方法を実践できる	相馬
3	治療原理③「筋力の維持・増強」 筋の基礎とアプローチ方法を実践できる	相馬
4	呼吸器疾患① 代表的な呼吸器疾患に対する作業療法を実践できる	相馬
5	呼吸器疾患② 代表的な呼吸器疾患に対する作業療法を実践できる	相馬
6	循環器疾患① 代表的な循環器疾患に対する作業療法を実践できる	相馬
7	循環器疾患② 代表的な循環器疾患に対する作業療法を実践できる	相馬
8	脳血管障害① 脳血管障害に対する作業療法を実践できる	相馬
9	脳血管障害② 脳血管疾患に対する作業療法を実践できる	相馬
10	外傷性脳損傷① 外傷性脳損傷に対する作業療法を実践できる	相馬
11	外傷性脳損傷② 外傷性脳損傷に対する作業療法を実践できる	相馬
12	関節リウマチ 関節リウマチに対する作業療法を実践できる	谷口
13	骨関節疾患 骨関節疾患に対する作業療法を実践できる	谷口
14	神経変性疾患① 神経変性疾患に対する作業療法を実践できる	相馬
15	神経変性疾患② 神経変性疾患に対する作業療法を実践できる	相馬

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	レポート	70	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：レポート課題における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常評価	30	

科目区分： 専門科目

令和 7 年

科 目 名	地域作業療法学演習 I	単位数	2	学科	作業療法	期	前期
		時間数	60	学年	2 年	区分	必修

科目担当責任者	高橋真紀	実務 経歴	病院・施設・事業所などで作業療法臨床に従事した経験を十分に持つ。この経験を活かして病院から地域まで作業療法の基礎知識、態度・対応、技術（観察、記録等）などについて授業を行う。
担 当 教 員	高橋真紀		
概 要	障害を持ちながら地域で暮らす人々およびその家族や地域を対象とした作業療法を計画するための知識、また障害を持たない人が経験する老化に伴う心身機能低下や生活不適応状態を可能な限り予防するための作業療法について教授する。さらに健康教育やヘルスプロモーションにおける作業療法について教授する。		
一般目標 (GIO)	地域における基本的な作業療法について理解する。(F-3-1)		
対 応 C C	実践事例を通して作業療法士の活動内容と役割について学び、地域との連携について理解する。 (F-3-3) (F-3-4)		

教 科 書	標準作業療法学 地域作業療法学 第3版	医学書院
参 考 書 ・ 教 材	講師配布プリント	
履修上の注意点		

実施回	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション 地域作業療法の実践事例①を通して地域作業療法をイメージできる	高橋
2	地域作業療法に関連する施設見学のため、関連事項を調べ、報告することができる	高橋
3	地域作業療法に関連する施設①へ見学実習	高橋
4	地域作業療法に関連する施設②へ見学実習	高橋
5	施設①②見学内容まとめ + 発表することができる	高橋
6	地域作業療法の実践事例を体験する前に対象者との交流に参加できる	高橋
7	地域作業療法の実践事例～体験実習① + 課題	高橋
8	地域作業療法の実践事例～体験実習② + 課題	高橋
9	体験実習ふりかえり・報告する + 課題を発表する	高橋
10	地域作業療法の実践事例③を通して、対象範囲を分類できる	高橋
11	障がいをもった人の生活・視点を学ぶ～障がい者講師を招いて	高橋
12	障がいをもった人の生活・視点を学ぶ～ふりかえり	高橋
13	レクリエーションについて～グループで協力し、課題のレクを企画・準備することができる	高橋
14	レクリエーションについて～グループで協力し、課題のレクを実施し、ふりかえることができる	高橋
15	高齢者体力測定を実際に指導し、経験し留意点を挙げるができる	高橋

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	60	受験資格：総授業時間数の 2 / 3 以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	レポート課題	40	

科目区分： 作業療法治療学

科 目 名	発達障害作業療法治療学	単位数	1	学科	作業	期	前期
		時間数	15	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	木谷 優矢	実務 経歴	小児を対象とした作業療法の実務経験を有する。その経験を基に事例等も活かして授業をおこなう。
担 当 教 員	木谷 優矢		
概 要	小児に関する代表的疾患について生活障害の特性、予後、評価と基本的な作業療法について座学で基本的知識を習得後、模擬実践できるように実技・グループワーク等にて学習を行う		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	・ 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる (F2-6 ①) ・ 疾患ごとの予後について説明できる (F2-6 ②) ・ 疾患ごとの評価と作業療法について説明・模擬実践できる (F-2-6 ③)		

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 第3版
参考書・教材	適宜資料配布
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1.	小児期の障害領域における作業療法の理念と目的、全体像を学び説明できるようになる。	木谷
2.	小児期の障害領域における作業療法の理念と目的、全体像を学び説明できるようになる。	木谷
3.	定型発達を学び、正常に育った場合と障害を有する場合の違いを説明することができる	木谷
4.	定型発達を学び、正常に育った場合と障害を有する場合の違いを説明することができる	木谷
5.	定型発達を学び、正常に育った場合と障害を有する場合の違いを説明することができる	木谷
6.	定型発達を学び、正常に育った場合と障害を有する場合の違いを説明することができる	木谷
7.	定型発達を学び、正常に育った場合と障害を有する場合の違いを説明することができる	木谷
8.	定型発達を学び、正常に育った場合と障害を有する場合の違いを説明することができる	木谷

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	50	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	授業態度	50	

科目区分： 作業療法治療学

科 目 名	発達障害作業療法治療学演習Ⅰ	単位数	2	学科	作業	期	前期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	木谷 優矢	実務 経歴	小児を対象とした作業療法の実務経験を有する。その経験を基に事例等も活かして授業をおこなう。
担 当 教 員	木谷 優矢		
概 要	小児に関する代表的疾患について生活障害の特性、予後、評価と基本的な作業療法について座学で基本的知識を習得後、模擬実践できるように実技・グループワーク等にて学習を行う		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	・ 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる (F2-6 ①) ・ 疾患ごとの予後について説明できる (F2-6 ②) ・ 疾患ごとの評価と作業療法について説明・模擬実践できる (F-2-6 ③)		

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 第3版
参考書・教材	適宜資料配布
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1. 2	小児期における疾患について学び、その特徴を基に作業療法の展開を説明・実施することができる (脳性麻痺)	木谷
3. 4	小児期における疾患について学び、その特徴を基に作業療法の展開を説明・実施することができる (脳性麻痺)	木谷
5. 6	小児期における疾患について学び、その特徴を基に作業療法の展開を説明・実施することができる (筋ジストロフィー)	木谷
7. 8	小児期における疾患について学び、その特徴を基に作業療法の展開を説明・実施することができる (筋ジストロフィー)	木谷
9. 10	小児期における疾患について学び、その特徴を基に作業療法の展開を説明・実施することができる (2分脊椎)	木谷
11. 12	小児期における疾患について学び、その特徴を基に作業療法の展開を説明・実施することができる (ASD))	木谷
13. 14	小児期における疾患について学び、その特徴を基に作業療法の展開を説明・実施することができる (ADHD)	木谷
15. 16	小児期における疾患について学び、その特徴を基に作業療法の展開を説明・実施することができる (LD)	木谷
17. 18	小児期における疾患について学び、その特徴を基に作業療法の展開を説明・実施することができる (協調性運動障害など)	木谷
19. 20	小児期における疾患について学び、その特徴を基に作業療法の展開を説明・実施することができる (ケーススタディ)	木谷
21. 22	小児期における疾患について学び、その特徴を基に作業療法の展開を説明・実施することができる (ケーススタディ)	木谷
23. 24	小児期における疾患について学び、その特徴を基に作業療法の展開を説明・実施することができる (ケーススタディ)	木谷
25. 26	小児期における疾患について学び、その特徴を基に作業療法の展開を説明・実施することができる (ケーススタディ)	木谷
27. 28	小児期における疾患について学び、その特徴を基に作業療法の展開を説明・実施することができる (ケーススタディ)	木谷
29. 30	小児期における疾患について学び、その特徴を基に作業療法の展開を説明・実施することができる (ケーススタディ)	木谷

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	50	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	授業態度	50	

科目区分： 専門科目

令和7年度

科 目 名	老年期作業療法治療学	単位数	2	学科	作業療法	期	前期
		時間数	30	学年	2年	区分	必修

科目担当責任者	高橋 真紀	実務 経歴	病院・施設・事業所などで作業療法臨床に従事した経験を十分に持つ。この経験を活かして病院から地域まで老年期作業療法の基礎知識、流れなどについて授業を行う。
担当教員	高橋 真紀 田中 孝博		
概要	老年期の特徴とリハビリテーションについての理解を深め、老年期をとりまく社会資源を知り、その連携のあり方を探る。また、老年期に対する作業療法とその役割を学ぶ。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	高齢期障害に対する基本的な作業療法について理解する。(F-2-7)		

教科書	標準作業療法学（専門分野）高齢期作業療法学 第3版 医学書院 高齢期における認知症のある人の生活と作業療法 第2版 三輪書店
参考書・教材	講師配布資料
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1	老年期にある対象者の作業療法の理念と役割について説明できる	高橋
2	高齢者・高齢社会について①説明できる	高橋
3	高齢者・高齢社会について②高齢期の課題について説明できる	高橋
4	高齢者・高齢社会について③社会制度や高齢期の作業療法について説明できる	高橋
5	老年期と作業療法について①高齢期の一般的特徴について説明できる	高橋
6	老年期と作業療法について②高齢期の一般的特徴について説明できる	高橋
7	老年期と作業療法について③高齢期の一般的特徴について説明できる	高橋
8	高齢期に多い疾患①について説明できる	高橋
9	高齢期に多い疾患②について説明できる	高橋
10	高齢者の評価について説明できる	田中
11	認知症について説明できる	田中
12	認知症の分類、BPSDについて説明できる	田中
13	認知症を抱えた対象者について説明できる	田中
14	認知症を抱えた対象者とのコミュニケーションについて実施する	田中
15	認知症を抱えた対象者の支援の重要性について説明できる	田中

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	80	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	レポート課題	20	

科目区分： 人体の構造機能及び心身の発達

科 目 名	運動学演習	単位数	2	学科	作業昼間	期	後
		時間数	60	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	谷口賢一	実務 経歴	病院、介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーションで の実務経験がある。
担当教員	谷口賢一		

概 要	運動における解剖学的構造、神経、エネルギー供給の基礎について学習する。また、基本動作の運動学的視点を身に付ける。
-----	--

一般目標 (GIO) 対 応 C C	人間は様々な活動（運動）を営むことができる生物ということを理解できるようになるため、人間の活動（運動）を細分化し、その基本的なメカニズムを学ぶ (C-2)。関節運動のメカニズムについて理解する (C-2-1)。基本動作のメカニズムについて理解する (C-2-2)。運動を実行するメカニズムについて理解する (C-2-3)。運動を継続するメカニズムについて理解する (C-2-4)。
-----------------------	--

教 科 書	PT・OT ビジュアルテキスト専門基礎 運動学 第2版 羊土社 運動療法のための解剖学的触診技術 上肢/下肢・体幹 第2版 メジカルビュー社
-------	---

参 考 書 ・ 教 材	適宜資料を配布する
-------------	-----------

履 修 上 の 注 意 点	
---------------	--

実施回	授業内容	担当教員
1	上肢の触診①（上肢の骨を触診できる）	谷口
2	上肢の触診②（上肢の筋を触診できる）	谷口
3	下肢の触診①（下肢の骨を触診できる）	谷口
4	下肢の触診②（下肢の筋を触診できる）	谷口
5	体幹の触診（体幹の骨、筋を触診できる）	谷口
6	形態計測（上下肢の形態計測ができる、アライメントを説明できる）	谷口
7	バイオメカニクス（運動に必要なバイオメカニクスを説明できる）	谷口
8	姿勢・運動制御（運動制御について説明できる）	谷口
9	運動学習（運動学習について説明できる）	谷口
10	筋力・筋電図（運動時の筋活動について説明できる）	谷口
11	運動負荷（運動負荷について説明できる）	谷口
12	基本動作①臥位・座位・立位（臥位・座位・立位の概要について説明できる）	谷口
13	基本動作②寝返り・起き上がり・立ち上がり（寝返り・起き上がり・立ち上がりの各動作の概要について説明できる）	谷口
14	基本動作③歩行（歩行の概要について説明できる）	谷口
15	基本動作④車椅子駆動（車椅子駆動の概要について説明できる）	谷口

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	60%	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常評価	40%	

科目区分： 臨床実習

科 目 名	見学実習	単位数	1	学科	作業昼間	期	後
		時間数	45	学年	1	区分	必修
科目担当責任者	1年生担任						
担 当 教 員	OT 全教員						
概 要	医療・福祉の現場を見学し、医療従事者になることへの自覚を高め、規律を遵守する心を培う。						
一般目標（GIO） 対 応 C C	臨床における作業療法を見学・観察し、作業療法及び作業療法士の果たす役割を学ぶ。 ①具体的なリハビリテーションの流れを理解できる。（G-4） ②作業療法士としての相応しい態度、習慣を習得できる。（G-1） ③作業療法士に必要な観察の基礎を習得できる。（G-4）						
履 修 上 の 注 意 点	・原則として、実習前評価にて合格した者に対してのみ履修を認める。 ・努めて全日出席する事。 ・医療人としての責任と自覚を持って行動する事。 ・実習後の到達度評価を受けた者が成績評価対象となる。						
実習における学習の概要							
実習の期間	当年度1年次の前期における1週間（5日間、計45時間）						
実習の場所	各学生に対して指定された臨床実習施設						
実習時間	各実習施設の就業時間に沿うものとする。 ただし、1日の実習時間は臨地体験と指定学習等を含め9時間とする。 （施設外での自主的な学習時間はこれに含めない）						
実習の内容	臨床実習施設において実習指導者の指導監督のもと、 ①臨床場面の見学・観察 ②指定課題（日報等）の作成 を行うものとする。						
特記事項	新カリキュラム規定に沿い見学実習相当の臨地実習では特に確立した「実習前評価」の形式での学生状況評価は行わないが、態度に著しい問題がある者、指示に従わないこと著しい者などの状況が改善しない者については履修を認めない場合がある。						
成 績 評 価	評価手段	割合(%)	基準および方法				
	実習指導者 評価	参考	受験資格：総授業時間数の4/5以上の出席で評価の資格を得る。 評価要領：実習指導者評価および出席状況や学習態度などを学校評価に加味して総合的に評価する。				
	学校評価	100%					

科目区分： 臨床実習

科 目 名	評価実習	単位数	3	学科	作業昼間	期	後
		時間数	135	学年	2	区分	必修
科目担当責任者	2年生担任						
担 当 教 員	OT 全教員						
概 要	実習指導者の指導のもと、対象者の評価を行い、結果を整理、考察して問題点を抽出し、記録、報告を適時適切に行う基本的な要領を習得する。また、対象者及び関係部門に対する配慮と関係保持並びにチームメンバーとしての資質、態度について体験を通し習得する。						
一般目標（GIO） 対 応 C C	学校で習得した知識・技術を総合して応用・活用し、基本的な評価および評価に関連する諸事項を体験・実施する学習の機会である。 ①作業療法評価に必要な疾患・障害に関する基本的知識について説明できる。（G-2-1） ②評価項目の選定理由について適切に理解し、説明できる。（G-2-1） ③基本的な情報収集や、評価手技が実施できる。（G-2-2） ④医療者として相応しい態度や行動を身につけることができる。（G-1）						
履 修 上 の 注 意 点	・原則として、実習前評価にて合格した者に対してのみ履修を認める。 ・努めて全日出席する事。 ・医療人としての責任と自覚を持って行動する事。 ・実習後の到達度評価を受けた者が成績評価対象となる。						
実習における学習の概要							
実習の期間	当年度2年次の後期における3週間（15日間、計135時間）						
実習の場所	各学生に対して指定された臨床実習施設						
実習時間	各実習施設の就業時間に沿うものとする。 ただし、1日の実習時間は臨地体験と指定学習等を含め9時間とする。 （施設外での自主的な学習時間はこれに含めない）						
実習の内容	臨床実習施設において実習指導者の指導監督のもと、 ①検査・評価技術の習練・習得 ②指定課題（日報等）の作成 を行うものとする。						
特記事項	実習前評価にて著しい問題（対象者を害するおそれ、著しい知識不足等）が認められた者については、実習の履修が認められないことがある。						
成 績 評 価	評価手段	割合（％）	基準および方法				
	実習指導者 評価	参考	受験資格：総授業時間数の4/5以上の出席で評価の資格を得る。 評価要領：実習指導者評価および出席状況や学習態度などを学校評価に加味して総合的に評価する。				
	学校評価	100％					

科目区分： 作業療法治療学

令和7年度

科 目 名	精神障害作業療法治療学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	谷口賢一	実務 経歴	病院、介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーションでの実務経験がある。
担当教員	谷口賢一		
概要	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法評価、作業療法について学ぶ。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法評価について理解する。(F-1-5) 精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する。(F-2-5)		

教科書	精神疾患の理解と精神科作業療法第3版 中央法規 精神障害と作業療法【新版】 三輪書店
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1	精神障害作業療法概論（精神保健医療福祉の歴史と現状について説明できる）	谷口
2	自己理解（自分の特性について説明できる）	谷口
3	精神障害の治療（代表的な精神障害の治療法を説明できる）	谷口
4	精神分析（精神分析と作業療法の関連について説明できる）	谷口
5	学習理論・認知理論（学習理論・認知理論と作業療法の関連について説明できる）	谷口
6	精神障害作業療法の構造①（精神障害に対する作業、作業療法士の活用について説明できる）	谷口
7	精神障害作業療法の構造②（精神障害に対する集団の活用について説明できる）	谷口
8	精神障害作業療法の評価（精神障害作業療法の評価の概要を説明できる）	谷口
9	精神障害作業療法の評価：面接・観察（精神障害作業療法における面接・観察の概要を説明できる）	谷口
10	精神障害作業療法の評価：面接・観察（精神障害作業療法における面接・観察を実施できる）	谷口
11	病院見学（病院見学を通して、精神障害作業療法を具体的にイメージできる）	谷口
12	病院見学（病院見学を通して、精神障害作業療法を具体的にイメージできる）	谷口
13	精神障害作業療法の評価：検査・測定（精神障害作業療法における検査・測定の概要を説明できる）	谷口
14	精神障害作業療法の評価：作業分析（作業分析を実施できる）	谷口
15	精神障害作業療法の目標設定・プログラム立案（精神障害作業療法の目標設定・プログラム立案の概要を説明できる）	谷口

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	70%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常評価	30%	

科目区分： 作業療法治療学

科 目 名	精神障害作業療法治療学演習	単位数	2	学科	作業昼間	期	後
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	谷口賢一	実務 経歴	病院、介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーションで の実務経験がある。
担当教員	谷口賢一		

概 要	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法評価、作業療法について学ぶ。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法評価について理解する。(F-1-5)		
	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する。(F-2-5)		

教 科 書	精神疾患の理解と精神科作業療法第3版 中央法規 精神障害と作業療法【新版】 三輪書店		
参 考 書 ・ 教 材	適宜資料を配布する		
履 修 上 の 注 意 点			

実施回	授業内容	担当教員
1・2	統合失調症の作業療法①(統合失調症の特徴および作業療法評価の概要について説明できる)	谷口
3・4	統合失調症の作業療法②(統合失調症の作業療法治療の概要について説明できる)	谷口
5・6	気分障害の作業療法(気分障害の特徴および作業療法評価・治療の概要について説明できる)	谷口
7・8	依存性障害の作業療法(依存性障害の特徴および作業療法評価・治療の概要について説明できる)	谷口
9・10	パーソナリティ障害・摂食障害の作業療法(パーソナリティ障害・摂食障害の特徴および作業療法評価・治療の概要について説明できる)	谷口
11・12	神経症性障害の作業療法(神経症性障害の特徴および作業療法評価・治療の概要について説明できる)	谷口
13・14	小児精神障害の作業療法(小児精神障害の特徴および作業療法評価・治療の概要について説明できる)	谷口
15・16	コミュニケーション(コミュニケーションスキルを実施でき、自分のコミュニケーションの特徴について説明できる)	谷口
17・18	認知行動療法(認知行動療法の概要について説明できる)	谷口
19・20	社会生活技能訓練(社会生活技能訓練の概要について説明できる)	谷口
21・22	作業療法と理論①(人間作業モデルについて説明できる)	谷口
23・24	作業療法と理論②(その他の作業療法の理論について説明できる)	谷口
25・26	症例検討①(症例の情報の整理ができる)	谷口
27・28	症例検討②(症例の目標設定ができる)	谷口
29・30	症例検討③(症例に対するプログラム立案ができる)	谷口

成 績 評 価	評価手段	割合(%)	基準および方法
---------	------	-------	---------

	定期試験	80%	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席
	平常評価	20%	評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 地域作業療法学

科 目 名	地域作業療法学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	谷口賢一	実務 経歴	病院、介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーションでの実務経験がある。
担当教員	谷口賢一		
概要	地域リハビリテーション、地域作業療法の基礎について学習する。職業リハビリテーションや領域ごとに地域作業療法について概説し、作業療法士の役割や必要な技能について理解を深める。		
一般目標（GIO） 対 応 C C	地域における基本的な作業療法について理解する（F-3-1） 就労支援領域における基本的な作業療法について理解する。（F-3-2） 住環境整備と支援機器に関わる基本的な作業療法について理解する。（F-3-3）		

教科書	標準作業療法学専門分野 地域作業療法学第4版
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1	地域作業療法①（地域作業療法の概念について説明できる）	谷口
2	地域作業療法②（地域作業療法における医学モデル、生活モデルの視点について説明できる）	谷口
3	地域作業療法③（地域作業療法における社会資源とその活用について説明できる）	谷口
4	住環境整備・福祉用具①（住環境整備の視点と基礎技術について説明できる）	谷口
5	住環境整備・福祉用具②（住環境整備のアセスメントについて説明できる）	谷口
6	住環境整備・福祉用具③（移動に関する住環境整備について説明できる）	谷口
7	住環境整備・福祉用具④（その他の住環境整備について説明できる）	谷口
8	就労支援①（就労支援における作業療法の役割について説明できる）	谷口
9	就労支援②（就労支援に関するアセスメントについて説明できる）	谷口
10	就労支援③（就労支援に関するアセスメントを実施できる）	谷口
11	領域別の地域作業療法①司法領域	谷口
12	領域別の地域作業療法②発達障害領域（学校等）	谷口
13	領域別の地域作業療法③災害リハビリテーション	谷口
14	領域別の地域作業療法④精神障害領域	谷口
15	領域別の地域作業療法⑤精神障害領域	谷口

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	80%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常評価	20%	

科目区分： 臨床実習

科 目 名	地域体験実習	単位数	1	学科	作業昼間	期	前
		時間数	45	学年	2	区分	必修
科目担当責任者	2年生担任						
担 当 教 員	OT 全教員						
概 要	通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション等の、地域リハビリテーションの現場での実習を通じ、地域医療や地域リハビリテーションに関する体験的理解を深める。						
一般目標（GIO） 対 応 C C	地域リハビリテーション領域（訪問・通所等）における作業療法を見学・体験し、地域医療・地域リハビリテーションにおける作業療法および作業療法士の業務内容について学習する機会である。 ①地域リハビリテーションの仕組みが理解できる。（F-3-1） ②地域リハビリテーションにおける作業療法の基本が理解できる。（F-3-1） ③地域リハビリテーションに必要な対象者との関わりを体験・実践できる。（F-3-1）						
履 修 上 の 注 意 点	・原則として、実習前評価にて合格した者に対してのみ履修を認める。 ・努めて全日出席する事。 ・医療人としての責任と自覚を持って行動する事。 ・実習後の到達度評価を受けた者が成績評価対象となる。						
実習における学習の概要							
実習の期間	当年度2年次の前期における1週間（5日間、計45時間）						
実習の場所	各学生に対して指定された臨床実習施設						
実習時間	各実習施設の就業時間に沿うものとする。 ただし、1日の実習時間は臨地体験と指定学習等を含め9時間とする。 （施設外での自主的な学習時間はこれに含めない）						
実習の内容	臨床実習施設において実習指導者の指導監督のもと、 ①地域領域における作業療法の実際を見学・体験する ②指定課題（日報等）の作成 を行うものとする。						
特記事項	新カリキュラム規定に沿い見学実習相当の臨地実習では特に確立した「実習前評価」の形式での学生状況評価は行わないが、態度に著しい問題がある者、指示に従わないこと著しい者などの状況が改善しない者については履修を認めない場合がある。						
成 績 評 価	評価手段	割合（%）	基準および方法				
	実習指導者 評価	参考	受験資格：総授業時間数の4/5以上の出席で評価の資格を得る。 評価要領：実習指導者評価および出席状況や学習態度などを学校評価に加味して総合的に評価する。				
	学校評価	100%					

科目区分： 臨床実習

科 目 名	総合臨床実習Ⅰ	単位数	9	学科	作業昼間	期	前
		時間数	405	学年	3	区分	必修
科目担当責任者	3年生担任						
担 当 教 員	OT 全教員						
概 要	「実習指導者の指導を受けながら、基本的な作業療法が独立して実施できること」を実習の最終の目標として、既に習得した知識・技術を臨床場面の実践の中で習得する。あわせて、医療人としての研究心、態度、並びにチームメンバーとしての資質を養う。						
一般目標（GIO） 対 応 C C	学校で習得した知識・技術、およびこれまでの臨床実習において学んだことを統合して応用・活用し、症例を通じて評価、目標・プログラムの検討、治療、までの流れを体験する学習の機会である。 ①対象者との良好な関係を築くことができる。 ②適切な情報収集を実施できる。（G-2-2） ③適切に検査・評価を実施できる。（G-2-2） ④ICF や MTDLP に基づき、対象者の全体像について理解できる。（G-2-3） ⑤評価結果と作業療法目標、治療プログラムの関連性を理解できる。（G-2-4, 5） ⑥治療プログラムの一部を適切に実施できる。（G-3）						
履 修 上 の 注 意 点	・原則として、実習前評価にて合格した者に対してのみ履修を認める。 ・努めて全日出席する事。 ・医療人としての責任と自覚を持って行動する事。 ・実習後の到達度評価を受けた者が成績評価対象となる。						
実習における学習の概要							
実習の期間	当年度3年次の前期における9週間（45日間、計405時間）						
実習の場所	各学生に対して指定された臨床実習施設						
実習時間	各実習施設の就業時間に沿うものとする。 ただし、1日の実習時間は臨地体験と指定学習等を含め9時間とする。 （施設外での自主的な学習時間はこれに含めない）						
実習の内容	臨床実習施設において実習指導者の指導監督のもと、 ①検査・評価技術の経験・習練・習得 ②治療手技・技法の経験・習練・習得 ③指定課題（日報・サマリ等）の作成 ④模擬症例担当による臨床の流れの経験 等を行うものとする。						
特記事項	新カリキュラム規定に沿い実習前評価を行う。態度に著しい問題がある者、指示に従わないこと著しい者などの状況が改善しない者など接遇や基本的態度に問題がある者については履修を認めない場合がある。						
成 績 評 価	評価手段	割合(%)	基準および方法				
	実習指導者 評価	参考	受験資格：総授業時間数の4/5以上の出席で評価の資格を得る。				

	学校評価	100%	評価要領：実習指導者評価および出席状況や学習態度などを学校評価に加味して総合的に評価する。
--	------	------	---

科目区分： 臨床実習

科 目 名	総合臨床実習Ⅱ	単位数	9	学科	作業昼間	期	前
		時間数	405	学年	3	区分	必修
科目担当責任者	3年生担任						
担 当 教 員	OT 全教員						
概 要	「実習指導者の指導を受けながら、基本的な作業療法が独立して実施できること」を実習の最終の目標として、既に習得した知識・技術を臨床場面の実践の中で習得する。あわせて、医療人としての研究心、態度、並びにチームメンバーとしての資質を養う。						
一般目標（GIO） 対 応 C C	学校で習得した知識・技術、およびこれまでの臨床実習において学んだことを統合して応用・活用し、症例を通じて評価、目標・プログラムの検討、治療、までの流れを体験する学習の機会である。 ①対象者との良好な関係を築くことができる。 ②適切な情報収集を実施できる。（G-2-2） ③適切に検査・評価を実施できる。（G-2-2） ④ICF や MTDLP に基づき、対象者の全体像について理解できる。（G-2-3） ⑤評価結果と作業療法目標、治療プログラムの関連性を理解できる。（G-2-4, 5） ⑥治療プログラムの一部を適切に実施できる。（G-3）						
履 修 上 の 注 意 点	・原則として、実習前評価にて合格した者に対してのみ履修を認める。 ・努めて全日出席する事。 ・医療人としての責任と自覚を持って行動する事。 ・実習後の到達度評価を受けた者が成績評価対象となる。						
実習における学習の概要							
実習の期間	当年度3年次の前期における9週間（45日間、計405時間）						
実習の場所	各学生に対して指定された臨床実習施設						
実習時間	各実習施設の就業時間に沿うものとする。 ただし、1日の実習時間は臨地体験と指定学習等を含め9時間とする。 （施設外での自主的な学習時間はこれに含めない）						
実習の内容	臨床実習施設において実習指導者の指導監督のもと、 ①検査・評価技術の経験・習練・習得 ②治療手技・技法の経験・習練・習得 ③指定課題（日報・サマリ等）の作成 ④模擬症例担当による臨床の流れの経験 等を行うものとする。						
特記事項	新カリキュラム規定に沿い実習前評価を行う。態度に著しい問題がある者、指示に従わないこと著しい者などの状況が改善しない者など接遇や基本的態度に問題がある者については履修を認めない場合がある。						
成 績 評 価	評価手段	割合(%)	基準および方法				
	実習指導者 評価	参考	受験資格：総授業時間数の4/5以上の出席で評価の資格を得る。				

	学校評価	100%	評価要領：実習指導者評価および出席状況や学習態度などを学校評価に加味して総合的に評価する。
--	------	------	---

科目区分： 作業療法治療学

科 目 名	臨床作業療法学	単位数	1	学科	作業昼間	期	前
		時間数	60	学年	3	区分	必修

科目担当責任者	谷口賢一	実務 経歴	病院、介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーションで の実務経験がある。
担 当 教 員	谷口賢一		
概 要	作業療法における臨床の治療方法を再度基礎から学ぶことにより、臨床技能および 国家試験に必要な知識と技術を身につける。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	作業療法士として必要最低限の知識と技術について理解する。 ・身体を構成する組織と器官の構造と機能について理解する (C-1-3) ・主な疾患の病因, 病態生理, 症候, 診断と治療を学ぶ。(D)		

教科書	Question-Bank 共通問題 メディックメディア
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1	国家試験特講① (骨・筋・関節の構造および機能について説明できる)	谷口
2	国家試験特講② (骨・筋・関節の構造および機能について説明できる)	谷口
3	国家試験特講③ (神経系の構造および機能について説明できる)	谷口
4	国家試験特講④ (神経系の構造および機能について説明できる)	谷口
5	国家試験特講⑤ (内部臓器の構造および機能について説明できる)	谷口
6	国家試験特講⑥ (内部臓器の構造および機能について説明できる)	谷口
7	国家試験特講⑦ (整形外科疾患について説明できる)	谷口
8	国家試験特講⑧ (整形外科疾患について説明できる)	谷口
9	国家試験特講⑨ (神経疾患について説明できる)	谷口
10	国家試験特講⑩ (神経疾患について説明できる)	谷口
11	国家試験特講⑪ (内部障害について説明できる)	谷口
12	国家試験特講⑫ (内部障害について説明できる)	谷口
13	国家試験特講⑬ (精神疾患について説明できる)	谷口
14	国家試験特講⑭ (精神疾患について説明できる)	谷口
15	国家試験特講⑮ (リハビリテーション概論について説明できる)	谷口

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	50%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平 常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のと おり。
	平常評価	50%	

科目区分： 疾病と障害の成立及び回復過程の促進

科 目 名	一般臨床医学（医学概論）	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	池上和洋	実務 経歴	
担 当 教 員	池上和洋		
概 要	臨床医学全般を概観し、必要な知識について学ぶ。		
一般目標（GIO） 対 応 C C	医療従事者としての資質のベースとなる知識について知る。医学の基礎知識を習得する。情報の収受選択の方法，優先度の考え方を実例をふまえて考える素養をつける。（対応 CC D－1）		

教科書	からだが見える第1版靱帯の構造と機能(メディックメディア)，講師プリント使用
参考書・教材	
履修上の注意点	毎回の復習は確実に実施するように。

実施回	授業内容	担当教員
1	医学のあゆみについて説明できる	池上
2	現代医学の問題点（バイオエシックス インフォームドコンセント）について説明できる	池上
3	産科学（妊娠と周産期）について説明できる	池上
4	婦人科学について説明できる	池上
5	頭部外傷と脳障害について説明できる	池上
6	内部障害としての腎透析について説明できる	池上
7	QOLを高めるためのターミナルケアについて説明できる	池上
8	耳鼻科疾患と障害について説明できる	池上
9	眼科疾患と障害について説明できる	池上
10	精神科疾患について説明できる	池上
11	スポーツ医学について説明できる	池上
12	救命救急医療について説明できる	池上
13	泌尿器・生殖器疾患について説明できる	池上
14	皮膚科疾患について説明できる	池上
15	老人医療について説明できる	池上

成 績 評 価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験		受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常評価		

科目区分： 科学的思考の基盤、人間と生活、社会の理解

科目名	英語	単位数	2	学科	作業療法	期	前期
		時間数	30	学年	1年	区分	必須

科目担当責任者	堀 琴美	実務 経歴	
担 当 教 員	堀 琴美		
概 要	医療現場で英語のコミュニケーションができるようになるために、PT・OTがよく使う英語の表現方法や医療用語を学修する。その中で基本的な英文法をおさらいし、日常会話程度の英文が読める・わかる・使えるように練習する。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	1. 挨拶や日常英会話を理解し、使えるようになる。 2. 基本的な身体部位や痛み、肢位の語彙や表現を理解し、使えるようになる。 3. 病院内の診療科、職名、案内の基本的な表現を覚え、使えるようになる。 4. 基本的な英文法を再習得し、英文理解の土台を固める。 (対応 CC : A-6-2)		

教科書	「PT・OT が書いたリハビリテーション英会話」メジカルビュー社
参考書・教材	教科書（音声ダウンロード利用可）、補助プリントを授業の中で配布する。
履修上の注意点	1コマ1コマの授業をしっかりと聞き、毎回の授業を受けるだけで期末試験に備えるつもりで臨んでください。授業中の居眠り、私語、内職を禁止します。

実施回	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション、コミュニケーションの基礎（自己紹介ができる）	堀
2	リハビリテーションの英語Ⅰ（痛むところを聞くことができる）	堀
3	リハビリテーションの英語Ⅱ（痛みの表現に対して相づちを打つことができる）	堀
4	リハビリテーションの英語Ⅲ（痛みの経過を聞くための時制を使い分けられる）	堀
5	自閉症の子どもⅠ（子どもを題材にした短いストーリーを理解できる）	堀
6	自閉症の子どもⅡ（自閉症の特徴について、登場人物の語りを理解できる）	堀
7	日常の動作Ⅰ（料理のレシピをみて、内容を説明できる）	堀
8	日常の動作Ⅱ（片手で着衣する映像を見て、解説に従って動作できる）	堀
9	日常の動作Ⅲ（食事の基本的な動作を表現できる）	堀
10	日常の動作と会話Ⅳ（ポピュラーソングの意味を理解し、歌うことができる）	堀
11	道案内の英会話（基本的なパターンを使って道案内ができる）	堀
12	病院で使う英語（診療科や職名を使って、館内の案内ができる）	堀
13	リハビリテーションの英語Ⅳ（基本的な肢位の表現法を使うことができる）	堀
14	リハビリテーションの英語Ⅴ（応用的な肢位の表現法を使うことができる）	堀
15	まとめと補足（頻回に使う言葉や重要な表現について確認することができる）	堀

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	80%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び 平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	受講態度	10%	
	発言内容	10%	

科目区分： 科学的思考の基盤、人間と生活社会の理解

科 目 名	社会福祉学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	宮越 美佳	実務 経歴	建築系専門学校にて、建築分野の法制度を教授。福祉系、医療系専門学校にて、社会福祉法制度論、建築法制度も含めた福祉住環境整備について教授。大学院では、豪雪地域における環境と生活をテーマに研究を行い、修士課程を修了。
担当教員	宮越 美佳		
概要	社会福祉の働きを学習するとともに、生活問題の原因と状況、その解決や予防について社会福祉の制度や援助実践がどのように行われているのかを概観し、社会福祉の理解を深める。また、患者・家族・他職種専門職とのコミュニケーションを通じて良好な人間関係を築く。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	作業・理学療法の成務を遂行する上で必要とされる社会福祉関係法規、自分自身を自己知覚し、クライアントや他職種 人との関係において必要とされるコミュニケーション力など、実践上必要とされる知識の習得を目指す。(対応 CC : B-1)		

教科書	レジュメ(レジュメをまとめるファイル等各自用意すること)
参考書・教材	特になし
履修上の注意点	講義ごとに社会福祉援助技術演習を行うので、前講義に次講義に必要な物品を指示する

実施回	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション、第1章 社会福祉学とは何か	宮越
2	第2章 社会福祉学の歴史的展開	宮越
3	第3章 社会福祉関係法規の流れ	宮越
4	第4章 介護保険法	宮越
5	第5章 障害者(児)の福祉の制度とサービス	宮越
6	第6章 障害者自立支援法	宮越
7	第7章 医療制度	宮越
8	第8章 所得保障	宮越
9	第9章 年金制度	宮越
10	第10章 生活保護	宮越
11	第11章 権利擁護	宮越
12	第12章 ノーマライゼーション、第13章 インフォームド・コンセント	宮越
13	第14章 ケースワークの原則 1	宮越
14	第14章 ケースワークの原則 2	宮越
15	第15章 環境の福祉	宮越

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験		評価基準: 試験を基礎とし、レポート加点、及び出席、授業態度を減点とする(満点は100点)。
	平常評価		
			評価方法: 出席(すべての授業を出席した学生との点数の差であって、単位取得のための出席日数とは関係がない)については、欠席ごとに2点減点及び授業態度、主に寝ている学生(は起こす)2点減点を勘案する

科目区分： 疾病と障害の成立及び回復過程の促進

令和 7 年度

科 目 名	小児科学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	池上和洋	実務 経歴	
担当教員	池上和洋		

概要	将来、現場で小児に携わるようになった時、少なくとも最初の数年の間にぶつかるであろう小児の諸問題について学ぶ。特に、療育という場面で小児に接することが多いと予想されるので、小児神経の領域、未熟児・新生児、重症心身障害児等の疾患について学習する。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	小児の障害を引き起こす主な疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を理解する（対応 CC D-11）		

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第6版
参考書・教材	
履修上の注意点	毎回の復習は確実に実施するように

実施回	授業内容	担当教員
1	小児科学概論について説明できる	池上
2	診断と治療の概念について説明できる	池上
3	新生児・未熟児疾患について説明できる	池上
4	先天異常と遺伝病について説明できる	池上
5	神経・筋・骨系疾患について説明できる	池上
6	循環器疾患について説明できる	池上
7	呼吸器疾患について説明できる	池上
8	感染症について説明できる	池上
9	消化器疾患について説明できる	池上
10	内分泌・代謝疾患について説明できる	池上
11	血液疾患について説明できる	池上
12	免疫・アレルギー疾患、膠原病について説明できる	池上
13	腎・泌尿器系、生殖器疾患について説明できる	池上
14	腫瘍性疾患について説明できる	池上
15	心身症、神経症等について説明できる	池上

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験		受験資格：総授業時間数の 2 / 3 以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常評価		

科目区分： 科学的思考の基盤、人間と生活社会の基盤

令和 7 年度

科 目 名	情報科学	単位数	2	学科	作業療法	期	前期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	高橋文代	実務 経歴	大学及び専門学校における、心理学系科目など（演習を含む）の非常勤講師としての経験を生かし、状況や理解度に応じて、統計の基礎をわかりやすく指導する。
担 当 教 員	高橋文代		
概 要	統計の基本的な知識を習得し、検定結果の読み取り方を理解する。記述統計を中心とした分析ではエクセルを用いた計算方法を身につける。また、t 検定、分散分析、相関などでは、これらの検定法をどのように使い分けるかを理解し、JSTAT を用いた検定方法を身につける。		
一般目標（GIO） 対 応 C C	・統計的分析の基礎的な理論と方法を理解する。 ・データの種類に応じた統計分析を選択・実施できるようになる。 （対応 CC：B-1-5、B-1-6）		

教科書	「First Book 統計がわかる」（技術評論社）
参考書・教材	教科書以外にも講義資料を配布します。
履修上の注意点	パソコンを用いた演習のデータを保存するために、各自USBを持参してください。

実施回	授業内容	担当教員
1	ガイダンスとエクセルの基本操作：パソコンの基本操作ができる。	高橋
2	データの分類と記述統計：平均、分散、度数分布を計算できる。	高橋
3	度数分布と標準偏差：データの分布を数値と分布の形態の関連づけができる。	高橋
4	信頼区間と母集団と標本：母集団と標本を区別でき、統計関数を使い分ける。	高橋
5	カイ 2 乗検定：頻度の比較をエクセルで統計計算できる。	高橋
6	前半の復習：1～5 回の内容の演習問題で復習し理解を深める。	高橋
7	中間試験	高橋
8	中間試験の解説と JSTAT 準備：JSTAT の基本操作ができる。	高橋
9	t 検定（対応あり）：JSTAT で対応のある t 検定を実施できる。	高橋
10	t 検定（対応なし）：JSTAT で対応のない t 検定を実施できる。	高橋
11	分散分析（1 要因）：JSTAT で 1 要因分散分析を実施できる。	高橋
12	分散分析（2 要因）：JSTAT で 2 要因分散分析を実施できる。	高橋
13	交互作用の意味：分散分析の多重比較を読み取ることができる。	高橋
14	その他の基本統計（相関、z 検定）：2 種類のデータの関連性を説明できる。	高橋
15	全体のまとめ：9～14 回の内容中心の演習問題で復習し理解を深める。	高橋

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	60	受験資格：総授業時間数の 2 / 3 以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	中間試験	40	

科目区分： 科学的思考の基盤、人間と生活社会の理解

令和7年度

科 目 名	心理学	単位数	2	学科	OT	期	前期
		時間数	30	学年	1年	区分	必修

科目担当責任者	渡辺舞	実務 経歴	
担 当 教 員	渡辺舞		
概 要	現代心理学の基本的な理論と考え方を理解し、具体的な人間理解とその基礎的技法を身につける。指定教科書以外にプリント教材、実験実習、性格検査などで適宜補い、体験し実感できる「心理学」の習得を目標とする。最終的には、リハビリテーションの現場において心理学的な側面からの対人理解と援助技法を実践しうる有能な作業療法士を目指す。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	人の行動と心理を理解するための基礎的な知識と考え方を理解する。 (対応 CC : C-2-6)		

教科書	医療と健康のための心理学（北樹出版）
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	授業中の積極的な姿勢を求めます。また私語・携帯の使用は厳正に対処します。 パーソナリティ検査・記憶実験等の実習も含まれるため、欠席は極力しないこと

実施回	授業内容	担当教員
1	心理学のなりたちと歴史を説明できる／心理学の領域・対象・方法・歴史	渡辺
2	感覚・知覚・認知を説明できる／5つの感覚・知覚、欲求と認知	渡辺
3	学習のしくみを説明できる／条件づけの過程とメカニズム	渡辺
4	学習のしくみを応用できる／条件づけの人間社会の応用	渡辺
5	記憶と思考のしくみを説明できる／記憶のメカニズム	渡辺
6	記憶と思考のしくみを応用できる／思考のメカニズムと人間社会での応用	渡辺
7	欲求・動機づけのしくみを説明できる／欲求の階層性・欲求不満	渡辺
8	欲求・動機づけのしくみを応用できる／動機付けのメカニズムを現場で活用する	渡辺
9	感情・情動のしくみを説明できる／情緒の理論と発達	渡辺
10	パーソナリティのしくみを説明できる／パーソナリティ理論	渡辺
11	パーソナリティの測定方法を説明できる／パーソナリティの測定と診断	渡辺
12	知能のしくみを説明できる／知能の測定と診断	渡辺
13	知能の測定方法を説明できる／知能の発達	渡辺
14	適応と適応異常を説明できる／ストレスの概念・防衛機制	渡辺
15	心理学の基礎理論を応用し説明できる／心理学のまとめ	渡辺

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	最終試験	80	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	出席課題	20	

科目区分： 疾病と障害の成立及び回復過程の促進

科 目 名	神経内科学	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	池上和洋	実務 経歴	
担 当 教 員	池上和洋		
概 要	神経疾患の多くは、その疾患の結果、直接機能障害や能力低下をきたし、リハビリテーションの対象となることが多い、従って重要なものである。 まず、神経疾患を理解する上で必要な基礎的知識を十分に習得する。その上で、様々な神経疾患の原因・症状、その結果生じる機能障害、能力低下を知る。 医学的リハビリテーションの対応についての学習をする。		
一般目標（GIO） 対 応 C C	神経疾患を引き起こす主な疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を理解する（対応 CC D-9，D-10）		

教科書	病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版
参考書・教材	
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1	障害とリハビリテーションプログラムについて説明できる	池上
2	中枢神経系の解剖と機能について説明できる	池上
3	神経学的診断と評価について説明できる	池上
4	神経学的検査法について説明できる	池上
5	意識障害、脳死、植物状態について説明できる	池上
6	運動麻痺、錐体路兆候、筋委縮について説明できる	池上
7	錐体路兆候、不随意運動について説明できる	池上
8	運動失調について説明できる	池上
9	感覚障害について説明できる	池上
10	高次脳機能障害：失語症について説明できる	池上
11	高次脳機能障害：失認について説明できる	池上
12	高次脳機能障害：失行について説明できる	池上
13	高次脳機能障害：記憶障害、認知症について説明できる	池上
14	機音障害について説明できる	池上
15	嚥下障害について説明できる	池上

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験		受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常評価		

科目区分： 人体の構造機能及び心身の発達

令和7年度

科 目 名	人間発達学	単位数	2	学科	PT・OT	期	前期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	槇 洋一	実務 経歴	北海道大学，北海道教育大学，札幌市立大学，札幌学院大学，北翔大学，北海道科学大学で心理学および医療系の講義を多数担当した経歴がある。この経歴を活かして，講義を行っていく。
担 当 教 員	槇 洋一		
概 要	人間の発達について，誕生から死に至る過程に沿って概説していく。身体，運動，心理といった側面について，それぞれの時期で生じる発達の特徴について学ぶ。		
一般目標（GIO） 対 応 C C	人の生涯の中で生じる身体，運動，心理といった側面の発達について，それぞれの時期の特徴を理解する。		

教科書	大城・儀間(編) リハビリテーションのための人間発達学 [第3版]，メディカルプレス
参考書・教材	授業ごとに講師が作成した資料を配布する
履修上の注意点	毎回講義で配布されるまとめ用の小テストを使って要点を覚えるようにしてください。

実施回	授業内容	担当教員
1	人間発達学の概要（発達に関する基本用語を学び，その意味を説明できる）	槇
2	発達の原理（発達の原理を学び，その意味を説明できる）	槇
3	発達の主要理論（ピアジェとエリクソンの発達理論を学び，その概要を説明できる）	槇
4	胎児期の発達（受精から出生に至る過程を学び，その流れを説明できる）	槇
5	乳児期の発達1（乳児の身体・運動の発達を学び，特に原始反射を説明できる）	槇
6	乳児期の発達2（乳児の運動発達を学び，歩行に至る運動制御を説明できる）	槇
7	乳児期の発達3（乳児の愛着の発達を学び，その意味を説明できる）	槇
8	幼児期の発達1（幼児の身体・運動の発達を学び，可能になる運動を説明できる）	槇
9	幼児期の発達2（乳幼児の言語発達を学び，言語発達のレベルを説明できる）	槇
10	児童期の発達1（児童期の身体・運動の発達を学び，その特徴を説明できる）	槇
11	児童期の発達2（児童期の認知の発達を学び，その特徴を説明できる）	槇
12	青年期の発達（青年期の身体，運動，心理の側面を学び，その特徴を説明できる）	槇
13	成人期の発達（成人期の身体，運動，心理の側面を学び，その特徴を説明できる）	槇
14	高齢期の発達（高齢期の身体，運動，心理の側面を学び，その特徴を説明できる）	槇
15	総まとめ	槇

成 績 評 価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	授業態度	20%	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	定期試験	80%	

科目区分： 疾病と障害の成立及び回復過程の促進

科 目 名	整形外科学	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	河村 秀朗	実務 経歴	四年
担 当 教 員	河村 秀朗		
概 要	整形外科疾患の病因, 症候, 診断と治療を単に覚えるだけでなく、医学の根本となる基礎医学(特に病態生理)を学んで頂き、より深く整形外科疾患について考えれる医療人に育って頂く事を目標にした構成とします。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	① 整形外科疾患の病態, 疫学, 病因, 症候, 予後について説明できる。 ② 評価, 検査 (画像・生理検査を含む), 診断について説明できる。 ③ リハビリテーション医療については、随時説明する時間があれば行うが、手技等の細かい事ではなく整形外科的且つ基礎医学的観点から、その必要性等々を出来るだけ平易に説明し理解してもらう事を目標にする。 ④ 担当時間がないが、国家試験に出ている疾患(熱傷等々)についても説明出来る事を目標にする。		

教科書	病気がみえる vol.11 運動器・整形外科
参考書・教材	講師配布資料
履修上の注意	

実施回	授業内容	担当教員
1	整形外科とは 整形外科に特徴的な基礎医学	河村
2	整形外科に特徴的な基礎医学	河村
3	整形外科に特徴的な基礎医学 感染症、慢性関節リウマチ	河村
4	慢性関節リウマチ及びその周辺疾患 先天性疾患	河村
5	骨腫瘍 軟部腫瘍	河村
6	骨粗鬆症及び代謝性骨疾患	河村
7	痛みの臨床医学 整形外科学的診断法	河村
8	神経について＜解剖と生理＞ 神経疾患（中枢性及び末梢性）	河村
9	脊椎疾患、脊髄損傷	河村
10	変形性関節症(上肢) 上肢関連疾患	河村
11	変形性関節症(下肢) 下肢関連疾患	河村
12	骨折及び外傷学一般	河村
13	スポーツ外傷 骨端症	河村
14	熱傷 阻血性疾患 その他整形外科疾患	河村
15	補講 模擬試験	河村

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	50	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	レポート課題	30	
	出席日数	20	

科目区分： 科学的思考の基盤、人間と生活社会の理解

科 目 名	生 物 学	単位数	2	学科	作業療法学科	期	前期
		時間数	30	学年	1 学年	区分	必修

科目担当責任者	守屋 開	実務 経歴	生物学を長年研究し、教育に携わってきた。この経験を活かして、生物学について授業を行う。
担 当 教 員	守屋 開		
概 要	生きのびるために最善を尽くし、受け継ぐものへエネルギーをつぎ込む生物の営みの本質を理解することにより、人間について様々な角度から考察できるようにする。また、生きとし生けるものを慈しむ細やかな心を持ち、幅広い科学的な感性を身につけて、今後の学習や生活に反映させるとともに、作業療法や将来に役立てるようにする。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	作業療法における専門基礎科目や専門科目の基礎となるヒトを含む生物の体の構造や様々な反応について考察し、ヒトの体の本質を理解する。		

教科書	生物学配付資料
参考書・教材	生物学配付資料、パワーポイント資料
履修上の注意点	最新情報も含め、生物学に興味関心を示し、学則及び履修規定にもとづき学習する。

実施回	授業内容	担当教員
1	地球と生命を学び、自然現象を基本的な科学的手法を使って計測できる。	守屋
2	生物の特徴を学び、無生物・細胞・組織・器官・個体の本質を説明できる。	守屋
3	酵素と代謝を学び、酵素・代謝・エネルギーを関連づけて述べることができる。	守屋
4	体内の環境を学び、恒常性・自律神経系・ホルモンの関連を比較説明できる。	守屋
5	生体の防御を学び、自己と非自己・免疫のシステムを述べることができる。	守屋
6	生殖と遺伝を学び、減数分裂・生殖・遺伝の関係を説明できる。	守屋
7	遺伝の情報を学び、染色体・DNA・遺伝情報を関連づけることができる。	守屋
8	発生と分化を学び、卵の発生や形態形成において、ヒトとの共通性を説明できる。	守屋
9	植物の反応を学び、環境応答・ホルモンで動物との共通性と相違性を比較できる。	守屋
10	動物の反応を学び、受容器・神経系・効果器の反応をヒト中心に説明できる。	守屋
11	動物の行動を学び、フェロモンを含む情報伝達方法と行動の違いを区別できる。	守屋
12	生態と環境を学び、景観や生態系・個体群・多様性と人間との関係を説明できる。	守屋
13	生活と生物を学び、医療と関連づけることができ、環境や趣味にも配慮できる。	守屋
14	生物の進化を学び、生物の変遷・進化理論からヒトに応用できる。	守屋
15	生物の系統を学び、種同定や分類手法・研究から生物を系統分類できる。	守屋

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	90	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	参加態度	10	

科目区分： 疾病と障害の成立及び回復過程の促進

科 目 名	内科学	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	池上和洋	実務 経歴	
担 当 教 員	池上和洋		
概 要	・ 作業療法士にとって必要とされる内科的知識を習得する ・ 作業療法士国家試験のための基礎学力を習得する ・ 医療従事者として必要とされる最低限度のモラルを習得する		
一般目標（GIO） 対 応 C C	内部障害を引き起こす主な疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を理解する （対応 CC D-12）		
教 科 書	病気がみえる vol.2 循環器 第5版 病気がみえる vol.4 呼吸器 第3版		
参 考 書 ・ 教 材			
履修上の注意点			

実施回	授業内容	担当教員
1	臨床医学総論 症状とその臨床学的意義について説明できる	池上
2	感染症について説明できる	池上
3	アレルギー疾患, 自己免疫疾患, 膠原病, 免疫不全について説明できる	池上
4	循環器疾患について説明できる	池上
5	心電図について説明できる	池上
6	呼吸器疾患について説明できる	池上
7	消化器疾患について説明できる	池上
8	肝・胆・膵疾患について説明できる	池上
9	内分泌疾患について説明できる	池上
10	代謝疾患について説明できる	池上
11	血液造血器疾患について説明できる	池上
12	腎 泌尿器疾患について説明できる	池上
13	中毒 環境に基づく疾患について説明できる	池上
14	脳血管疾患について説明できる	池上
15	変性疾患について説明できる	池上

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験		受験資格：総授業時間数の 2 / 3 以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常評価		

科目区分： 疾病と障害の成立及び回復過程の促進

科 目 名		臨床心理学	単位数	2	学科	作業療法	期	後期
			時間数	30	学年	1 年	区分	必須
科目担当責任者	堀 琴美	実務 経歴	臨床心理士・公認心理師の資格を有し、医療臨床経験や、福祉施設、大学の教育・臨床経験がある。これらの幅広い知識と経験を活かし、実践的でわかりやすい授業を行う。					
担 当 教 員	堀 琴美							
概 要	臨床心理学は心に悩みを持つ人が問題を解決できるように援助するための学問である。障害や疾病を持つ人の状況や気持ちを理解し、行動や思考の仕組みを紐解き、心理的支援の在り方や、アセスメントの方法、発達障害や精神障害などについて学修する。							
一般目標 (GIO) 対 応 C C	1 臨床心理学の基礎知識と理論を習得し、用語を正しく使えるようになる。 2 対人援助専門職として、心の問題と支援の方法について理解する。 3 国家試験を解く力を身につける。 (対応 CC : D-4)							

教科書	Crosslink Basic リハビリテーションテキスト 心理学・臨床心理学 (メジカルビュー社)
参考書・教材	授業でプリントを配布する。すべての配布資料を保管して、復習すること。
履修上の注意点	授業内容に関する質問や意見を随時歓迎します。学習内容についてグループワークで話しあい互いに理解を深めてください。授業と関係のない私語や内職を禁止します。

実施回	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション (臨床心理学とは何かを学び、その諸分野を俯瞰できる)	堀
2	こころの構造・防衛機制Ⅰ (防衛機制について例を挙げ説明できる)	堀
3	防衛機制Ⅲ・患者と治療者 (防衛機制の応用として転移・逆転移を説明できる)	堀
4	心理療法Ⅰ、集団・芸術療法 (集団療法の演習に協調的に参加・実践できる)	堀
5	心理療法Ⅱ、カウンセリング理論 (理論に基づくロールプレイを実践できる)	堀
6	心理療法Ⅲ、いろいろな心理療法 (各技法を分類し、特徴を説明できる)	堀
7	学習理論と行動療法 (理論と技法を関連づけ、大分類・小分類が正しくできる)	堀
8	心理検査Ⅰ、アセスメントの方法 (いろいろなアセスメント方法を分類できる)	堀
9	心理検査Ⅱ、人格検査 (質問紙を使って自分の性格を分析できる)	堀
10	心理検査Ⅲ、投影法 (投影法の諸技法について、特徴を挙げることができる)	堀
11	心理検査Ⅳ、知能検査 (グループ演習に協調的に参加し、適切に実施できる)	堀
12	発達の障害、(発達障害・知的障害・認知障害について説明できる)	堀
13	精神の障害 (気分障害・パーソナリティ障害について分類できる)	堀
14	障害受容 (コーンのステージ理論、キューブラ＝ロスの死の受容を説明できる)	堀
15	補足とまとめ (学修内容を振り返り、重要項目について各自確認作業ができる)	堀

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	80%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価 (実習・実技を含む) 及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	発言	10%	
	グループワークにおける積極性	10%	